

昭和53年度 臨床相談技術共同開発事業報告 (1)

乳幼児の言語発達スクリーニングテストの 作成に関する研究

研究班長 佐野良五郎

(佼成病院小児保健部)

日本総合愛育研究所
研究第5部

望月武子・丸尾あき子

共同研究者

堤節子

神園寿子・橋本牧子

(佼成病院小児保健部)

I 目 的

乳幼児健診、乳幼児相談の場で言語障害に関する問題が非常に増加している。昭和52年度の児童相談所における3歳児精神発達精密検診の内容をみても、総件数約25,000件のうち約7,000件を占めており、首位のしつけ相談に次いで多く、その割合は、昭和49年度20%、50年度24%、51年度27%、52年度28%と年々増加の傾向を示している。この中で最も多いのがことばの発達の遅れが心配されるものである。

ことばの遅れを訴える事例に接した場合に、子どもの言語発達の状態を正確に把握して、その発達が正常範囲内であるのか、あるいは、何らかの障害があるのか判断することは容易ではない。適切な手段を持たないまま、3歳を過ぎるまでは分からないからと、ただ自然の発達経過を待つという消極的な方法がとられることが多い。

乳幼児期の発達については、発達検査の結果からみても、発達指数の動揺が大きく、予測が困難であるとされている。特に、言語発達においては、発達状態を検査する適切な手段が乏しいうえに、個人差が大きく、発達にかかわる要因も複雑多様である。このため子どもの言語発達の現状を的確に把握することは必ずしも容易でなく、まして現状に基づいて予測的な判定をすることはさらに困難である。このような理由で、前記のようにただ経過を待つという消極的な方法がとられ、指導対策を遅らせている場合が少なくない。

乳児期および幼児期初期は、言語獲得の基礎を作る重要な時期である。言語発達が子どもと養育者の人間関係を基盤にして、養育者の積極的な働きかけの影響を受けるという事実からも、ことばの遅れが心配される子ども

に対してこの時期を無為に見すごすことはできない。言語発達に遅れのある子どもをできるだけ早期に発見して、適切な指導や治療を行うことが必要な時期である。そして早期に指導対策を講じることにより、問題の拡大を防ぎ、障害を軽減することが可能であろう。

このような観点から、乳幼児の言語発達の状態を把握するための適切な方法の必要性が生じて来る。そこで、われわれは乳幼児の言語発達スクリーニングテストの作成を意図した。特に、1歳6か月児健診、3歳児健診の場でことばの問題が大きな位置を占めている現状からみて、乳幼児健診の現場で保健婦にも使用できるように、短時間で、簡易に言語発達をスクリーニングするテストの作成を目的とした。

II 方 法

1 原案の作成

1) 作成上の問題点

言語発達を評価する方法として1)直接子どもに課題を与えてテストする方法、2)自然場面での子どもの言語活動を観察記録して分析する方法、3)親や養育者から子どもの言語活動についての情報を聴取する方法などがある。

1)、2)の方法は、それを実施するためには検査者に対する専門的な訓練が必要であるうえに、所要時間もかなり長時間を要する。また、乳幼児を対象とする場合、未知の場や検査者に対して、子どもが平常の言語活動の状態を示すことはかなりむずかしい。これらの理由で、われわれの目的には適合しない。

これに対し、短時間で乳幼児の言語発達の状態を知ろうとする場合、日常子どもとの接触の多い母親から情報を得ることは有効な手段である。しかし、その情報の信

類性については問題が大きい。母親自身の能力の問題や母親の子どもへの関心のもち方、言語発達に対する認識の差などがその内容に大きく影響し客観的な情報となりにくい。特に、子どものことばの遅れに不安をもっている場合は、母親の情報はどうしても不安・期待・願望を反映した主観的なものとなるおそれが大きい。

このような問題点をふまえ、それをカバーするために、どのような質問項目を設定するか、母親の情報の客観性を高めるにはどうするかということが原案作成上の重要な問題点になると考えられる。

母親から情報を聴取して言語発達を評価する方法としては、言語能力発達質問紙、乳幼児精神発達診断法の一部、Mechamの尺度、などがある。それぞれ臨床的には有意義なものであるが、わが国での標準化がされていないか、あるいは詳細すぎたり簡単すぎたりして、ただちにわれわれの要求にそまものがない。そこで、これらの内容を参考にして、われわれの目的にあうテストの作成に着手した。

2) 質問項目の選定

現行の乳幼児対象の発達検査（乳幼児精神発達検査、乳幼児精神発達診断法、MCC乳幼児精神発達検査、鈴木ビネー検査など）および、言語能力発達質問紙、Mechamの尺度の項目や、発達心理学の文献にみられる乳幼児の行動発達の記述の中から言語発達に関する項目を選び出した。この際、日常生活で母親に観察されやすい行動、多くの子どもが経験する可能性のある状況を採択するよう配慮した。

また、一般にはことばの遅れを表出面だけの遅れとしてとらえる傾向が強く、親は、子どもは話しかけられたことは何でも理解するという受けとめ方をしていることが多いが、実際には理解面も遅れている場合が多い。したがって、理解と表出の両側面から発達状態を把握することの必要性を考えた。

この場合、「理解」はシンボルとしてのことばにより伝えられた他人の意思や感情を理解したり、それに適切に反応する能力としてとらえた。そして、この中には将来「理解」の発達にかかわるであろうと考えられる、聴覚的反応、表情やみぶりの理解、象徴行動なども含めた。

「表出」は音声の表出、話しことばとしてとらえた。こうして選択した項目を発達順に配列して原案を構成した。この原案は、日本総合愛育研究所紀要第12集、幼児の言語発達に関する研究——言語活動における母親の役割——の中で、子どもの言語発達を評価するために構成し、使用したものであるが、これをそのままスクリー

ニングテスト作成のための第1試案とした。質問項目の構成は理解言語の発達をみようとするもの32問、表出言語の発達をみようとするもの42問、その他13問からなっている。（具体的内容は前記紀要 P.162~164 を参照）

2 予備テスト

1) 第1次予備テスト

第1次の予備テストは、昭和50年7月から51年7月にわたって行った。

調査対象は、愛育病院保健指導部と佼成病院小児保健部に来所した乳幼児で、母親との面接により資料を収集した。被験者数および年齢は第1表の通りである。

第1表 第1次予備テスト被験者数

年 齢	男	女	計
0 : 3	58	72	130
0 : 6	20	28	48
0 : 9	47	48	95
1 : 0	50	50	100
1 : 3	50	50	100
1 : 6	50	50	100
1 : 9	17	14	31
2 : 0	50	50	100
2 : 6	18	17	35
3 : 0	11	14	25
3 : 3	12	15	27
3 : 6	13	25	38
3 : 9	12	17	29
4 : 0	13	28	41
計	421	478	899

各質問項目について、年齢段階別、男女別に通過率を算出し、発達のみにて選別力の十分でない項目を削除した。そして、難易度に応じて質問項目の配列を修正した。

この時点で、折半信頼係数は0.99であった。

2) 第2次予備テスト

第1次予備テストの結果に基づき原案の修正を行い、さらにいくつかの質問項目を追加して試案2を作成した。この際、特に留意したことは母親の報告の客観性を高めるという点である。このため、質問項目の内容を具体的なものにして、子どもの活動状況を想起しやすいようにするとともに、母親からは子どもの行動について具体的な例示を求めて、調査者ができるかできないかの判定をするよう配慮した。また、質問項目を6か月ごとの年齢段階に区分し、各質問について「できる」「時々できる」「できない」「やったことがない」の4種の回答欄を設け、該当する欄にチェックする方法を採用した。

第2表 第2次予備テスト被験者数

年 齢	調 査 数
0 : 6	30
1 : 0	30
1 : 6	30
2 : 0	30
2 : 6	30
3 : 0	27
計	177

質問項目の構成は「理解」36問、「表出」34問からなっている。

第2次予備テストは昭和52年3月から8月まで実施し、対象は主として倭成病院小児保健部に来所した乳幼児である。月齢別の調査数は第2表の通りである。

結果の処理は第一次予備テストと同様に行い、この時点での折半信頼係数は0.82であった。

3 本 検 査

第1次、第2次予備テストの結果に基づいて原案を逐次改訂した。これに若干の項目を追加して試案3を作成し、本検査を行った。本検査に先だち、各質問項目が何をみようとするものが質問の主旨、合格基準について簡単な説明をした手引書をつくり、調査者間の統一をはかっている。

第3表 本検査被験者数

年 齢	地 域		愛 育		倭 成		大 津		高島平	保育所	計	
	I	II	I	II	I	II	I	II				
0 : 8 ~ 0 : 10	43 24 19	/	37 16 21	/	54 28 26	/	26 11 15	20 8 12	180 87 93			
0 : 11 ~ 1 : 1	42 22 20	/	31 16 15	/	49 25 24	20 7 13	23 12 11	21 11 10	186 93 93			
1 : 2 ~ 1 : 4	34 16 18	/	31 16 15	/	50 24 26	34 18 16	20 10 10	25 13 12	194 97 97			
1 : 5 ~ 1 : 7	34 15 19	/	33 16 17	/	56 32 24	35 17 18	38 25 13	28 13 15	224 118 106			
1 : 8 ~ 1 : 10	34 15 19	/	19 9 10	/	55 33 22	31 17 14	21 11 10	35 20 15	195 105 90			
1 : 11 ~ 2 : 1	43 19 24	/	34 17 17	/	44 22 22	37 23 14	30 15 15	37 20 17	225 116 109			
2 : 2 ~ 2 : 4	33 16 17	42 14 28	35 17 18	46 20 26	40 23 17	18 10 8	41 20 21	255 120 135				
2 : 5 ~ 2 : 7	31 16 15	51 27 24	36 22 14	67 33 34	34 18 16	20 10 10	37 18 19	308 161 147				
2 : 8 ~ 2 : 10	39 17 22	53 31 22	37 16 21	53 21 32	33 15 18	/	29 15 14	244 115 129				
2 : 11 ~ 3 : 1	49 26 23	48 21 27	44 24 20	56 26 30	37 15 22	32 15 17	35 17 18	301 144 157				
3 : 2 ~ 3 : 4	/	52 29 23	21 11 10	/	39 19 20	/	/	112 59 53				
計	382 186 196	246 122 124	217 107 110	173 90 83	530 264 266	340 172 168	228 119 109	308 155 153	2,424 1,215 1,209			

注：上段：男 下段：女
調査地域のII：質問項目の一部修正及び信頼性検討のための再調査。

1) 期間

昭和53年6月から54年5月までの1年間にわたり、各調査地点で順次実施した。

2) 被験者

愛育病院保健指導部、倭成病院小児保健部（ともに東京都およびその近県の居住者）高島平保健相談所（板橋区）天津市健康管理センター、世田谷区内保育所を手がかりとして年齢該当者の中から無作為に選んだ。

年齢段階の区分および被験者数は第3表の通りである。

3) 調査方法

① 愛育病院、倭成病院、高島平保健相談所の被験者については、研究担当者が直接母親との面接によって実施した。

② 天津市については、母親に質問紙を配布して直接記入を求め、記入事項を研究担当者がチェックする方法をとった。このように①と②の場合は資料の収集方法が異なるが、天津市の2歳6か月児については研究担当者が直接母親との面接により資料を得ることもできたので、アンケート方式で得た資料と得点の差を検討した。第4表に示したようにいずれも有意差は認められなかった。アンケートの有効回答率は51%であった。

第4表 面接・アンケートによる得点の差の検定

	面接	アンケート	t
N	20	47	
理解得点	25.0	23.9	1.61
表出得点	26.0	26.5	0.72
合計得点	51.0	50.4	0.49

③ 保育所については、園長、担任保育士に手引書を配布して主旨の徹底をはかって協力を依頼した。

④ 愛育病院、倭成病院での2次調査ではアンケート方式を用いた。回収率は愛育55%、倭成64%であった。なお、天津市、高島平、保育所についての調査の実施は日本総合愛育研究所が担当した。

4) 資料の処理

このようにして得た資料について、記入範囲などで必要条件を満たしていないものを除き、質問に対し「できる」場合を1点、「ときどきできる」を0.5点、「できない」「やったことがない」を0点として得点を与えた。そして、各質問項目ごとに年齢段階別、男女別の通過率を算出し、個人別に言語発達得点を算出した。

III 結 果

1 通 過 率

1) 質問項目配列の再検討

各項目ごとに、各年齢段階別、男女別の通過率を算出した。

質問項目は6か月間隔の年齢段階で区分し配置してあるが、本検査の通過率に基づいて再検討し、各年齢段階の子どもの65%以上が通過する項目をそれぞれの年齢段階へ配置した。例えば、1歳半段階の質問項目は1歳6か月または1歳9か月段階で65%以上の通過率を示すものであり、2歳段階の質問項目は2歳0か月および2歳3か月段階で65%以上の通過率を示すものを配置した。

そして、各質問項目の配列を難易順に修正して最終案とした。最終的に残された質問項目は「理解」30問、「表出」31問である。

第5表-1～2は、理解と表出の側面別に各質問項目の通過率と配列順を示したものである。

2) 性差の検討

幼児期の言語発達については、女兒に優位な傾向が認められることが一般に知られている。

第6表-1～4は、理解、表出の各質問項目の通過率を男女別に示したものである。

各項目について、年齢段階ごとに比率の差の検定を行った。表中*印のある項目は、信頼度95%以上で有意差があるものである。「理解」29問（前・後・横の位置のうち2か所以上わかる）が2歳6か月段階で男児の合格率が高くなっている以外は、いずれも女兒の発達が早く、特に表出の領域で有意差のある項目が多い。

質問項目を各年齢段階へ配置するにあたって65%以上の通過率を基準にしたが、男女別にみた場合、「理解」30問（ごっこ遊びで役割をとって遊ぶ）は各年齢段階を通じて男児の合格率が低く、この項目のみは基準条件を満たしていない。

2 言語発達得点

1) 得点の分布

最終的に撰択された質問項目に対し、「できる」と答えたものに1点、「ときどきできる」に0.5点、「できない」「やったことがない」を0点として、個人別に理解、表出、合計の得点をそれぞれ算出し、言語発達得点とした。本検査の途中で、3歳段階の質問項目の一部を修正したため、得点化に用いた資料は表中に示した数である。

各年齢段階別に合計得点の分布率を示したものが第1図である。得点の級間はそれぞれの年齢段階の標準偏差

第5表-1 言語発達スクリーニングテスト通過率(全体) —理解—

番号	質問項目	年齢										
		0:8 ~0:10	0:11 ~1:1	1:2 ~1:4	1:5 ~1:7	1:8 ~1:10	1:11 ~2:1	2:2 ~2:4	2:5 ~2:7	2:8 ~2:10	2:11 ~3:1	3:2 ~3:4
		調査数										
		180	186	194	224	195	225	255	308	244	301	112
1	声をかけると声のした方をみる	100										
2	音や話し声をじっと聞く	98.3										
3	母親の声をききわける	93.1	99.2	100								
4	名前を呼ばれるとその方をみる	94.4	99.2									
5	笑顔や怒った顔の表情がわかる	90.8	96.8									
6	誘いかけに応じてバイバイなどの動作をする	56.9	91.1	98.2								
7	「ちょうだい」と手を出すともっているものを渡す	27.0	90.6	97.2								
8	「いけません」というと手をひっこめる	47.2	83.9	93.8	97.1							
9	離れた所にあるものを促されてみつける	23.3	70.2	86.9	96.4							
10	「いらっしやい」「たち」などことばだけでわかる	18.3	56.7	88.7	97.3							
11	「パパどこ」「ママは」ときくとその方をみる	23.9	54.3	87.6	97.1							
12	「新聞をもって来てちょうだい」などのいいつけに従う	0.6	9.7	56.2	81.5	91.3	98.2	98.6				
13	電話・玄関のベルがなると知らせようとする	0.6	7.0	42.0	72.1	82.8	91.1	95.7				
14	「お目々は」「お口は」…ときくと2か所以上指す		6.2	32.5	72.1	88.0	97.1	99.2				
15	絵本で「ワンワンどれ」などきくと4つ以上のものを指す		6.5	31.2	65.2	85.6	95.1	99.2				
16	母親の要求に応じて食事・入浴を家族に知らせる	0.2	9.0	35.3	54.4	84.2	88.6	96.6	98.2	98.3		
17	絵本で問いかけに応じて10こ以上のものを指す	0.5	4.6	25.9	52.8	81.1	91.8	97.7	99.0	99.2		
18	二つの内容を含むいいつけをまちがいなくやる	0.5	12.4	35.5	49.2	73.6	87.5	94.5	96.9	96.3		
19	絵本をよんでもらいたがり一冊読み終るまできく	2.7	18.0	37.7	47.4	65.3	77.5	81.5	82.8	88.0		
20	何冊かの絵本の中から指定された本をもってくる	0.5	5.9	25.5	42.1	60.7	72.4	85.6	88.3	90.9		
21	大きい、小さいということがわかる		0	7.1	20.8	43.6	66.5	84.6	95.5	93.7	96.9	
22	上・下・中の位置の中2か所以上わかる		0.5	9.8	20.3	40.4	57.3	75.8	87.1	91.4	86.6	
23	欲しいものがあったてもいいきかせると我慢してまつ			16.1	28.5	48.2	61.2	75.0	79.1	83.7	84.4	
24	「赤はどれ」…ときくと3色以上の色を正しくさす			4.0	12.1	26.7	45.7	63.5	78.5	93.7	87.1	
25	ことばで表現しきれないものを「コウナッテユウナッテ」と説明						28.6	50.8	72.4	80.6	83.9	
26	26問以降の調査数						117	121	123	129	112	
26	自分の性を正しく言う						24.4	43.8	65.4	83.3	94.2	
27	お話をしてもらいたがり話がとぎれると催促する						42.3	45.5	68.3	79.5	79.0	
28	2つまでまちがいなく渡す						30.8	51.7	69.1	75.6	82.1	
29	前・後・横の位置のうち2か所以上わかる						23.1	43.0	54.5	67.8	69.6	
30	ごっこ遊びで役割をとって遊ぶ			0.7	2.3	11.6	33.5	51.8	66.2	66.8	70.5	
S.S												

太線の枠は質問項目の配置年齢段階を示す。

第5表-2 言語発達スクリーニングテスト通過率(全体)——表出——

番号	質問項目	年齢 調査数										
		0:8 ~0:10	0:11 ~1:1	1:2 ~1:4	1:5 ~1:7	1:8 ~1:10	1:11 ~2:1	2:2 ~2:4	2:5 ~2:7	2:8 ~2:10	2:11 ~3:1	3:2 ~3:4
		180	186	194	224	195	225	255	308	244	301	112
1	アーアー・ウーウなど声を出す	100										
2	あやすと声を出したり、笑ったりする	100										
3	声をたてて笑う	99.4										
4	声をだして要求したり、大人の注意をひく	93.3	99.2									
5	パーパー・マンマンなど唇や舌を使った音を出す	88.3	98.7									
6	食物をみるとマンマのような音を出す	47.8	84.9	92.5	99.8							
7	咳・舌うち・笑い声などをまねる	50.3	76.3	86.9	95.8							
8	マンマ・ブーブなどくり返して話しかけると似た音をだす	42.8	75.8	90.5	97.3							
9	話しことばのような調子で声を出す	37.5	61.8	80.2	92.0							
10	意味のあることばを言う	21.9	58.6	89.2	98.0							
11	母を「ママ」「チャーチャン」などという	2.5	19.6	52.3	81.9	91.3	96.2					
12	絵や物をさしてその名前をいう	0.6	10.5	39.2	75.5	90.0	95.3					
13	手をふりながら「バイバイ」という	2.2	8.3	48.7	74.3	91.3	96.7					
14	要求をことばで言う	0	8.1	41.2	69.9	88.0	95.1					
15	おとなの言ったことばをまねる		9.9	33.8	64.3	78.8	91.3	95.9				
16	名前を呼ばれると返事をする		0.5	1.3	34.8	64.9	75.3	86.1	90.6	94.3	93.5	88.4
17	「パパ」「ママ」と呼びかけて、要求をことばでいう		0.3	1.5	15.2	38.7	70.4	89.2	96.8			
18	二語文を話す		0.3	1.5	14.3	36.4	69.3	87.6	96.6			
19	友だちの名前を覚えていう		0.5	5.2	19.2	39.7	68.0	83.7	93.3			
20	簡単な質問にことばで答える		0.5	0.8	17.0	38.0	67.6	84.9	94.8			
21	自分のことを名前でいう		0.5	2.1	13.4	38.0	62.2	83.5	95.1			
22	「コレナニ・コレナニ」とききたがる				6.5	18.7	45.3	76.9	88.0	94.5	95.8	98.2
23	「ボクノ自動車」など助詞を使った修飾文を言う				2.5	9.7	40.9	64.5	90.6	97.3	97.3	100
24	絵をみて簡単な叙述をする				7.8	7.4	34.0	56.1	83.3	93.2	96.3	97.3
25	「いくつ」ときくと年齢を答える				11.2	26.9	39.3	58.6	75.2	90.8	89.4	94.2
	26問以降の調査数							117	121	123	129	112
26	「名前は」ときくと姓名をいう						13.3	44.4	61.6	77.6	89.9	96.0
27	4~5語文を話す						8.5	32.5	47.9	76.0	85.3	89.3
28	両親の姓名を言う						4.5	17.9	33.9	48.0	69.4	73.2
29	「…から…なった」と原因・結果を関係づけて話す							16.2	30.2	56.1	68.6	76.3
30	昨日・今日・明日などのことばを使って話す							23.1	29.8	52.0	68.2	72.3
31	接続詞を使って話す							17.5	31.8	53.3	61.6	73.2

太線の枠は質問項目の配置年齢段階を示す。

第6表-1 言語発達スクリーニングテスト通過率(男) —理解—

* 5%危険率で男女差のある項目

番号	質問項目	年齢										
		0:8 ~0:10	0:11 ~1:1	1:2 ~1:4	1:5 ~1:7	1:8 ~1:10	1:11 ~2:1	2:2 ~2:4	2:5 ~2:7	2:8 ~2:10	2:11 ~3:1	3:2 ~3:4
調査数		87	93	97	118	105	116	120	161	115	144	59
1	声をかけると声のした方をみる	100										
2	音や話し声をじっと聞く	98.9										
3	母親の声をききわける	95.4										
4	名前を呼ばれるとその方をみる	97.7	99.5									
5	笑顔や怒った顔の表情がわかる	93.1	98.4									
6	誘いかけに応じてバイバイなどの動作をする	*46.6	89.8	98.5								
7	「ちょうだい」と手を出すともっているものを渡す	26.4	90.9	97.4								
8	「いけません」というと手をひっこめる	43.7	90.3	92.8	96.9							
9	離れた所にあるものを促されてみつける	26.4	69.9	83.5	96.2							
10	「いらっしゃい」「たちち」などことばだけでわかる	18.4	55.9	86.1	96.2							
11	「パパどこ」「ママは」ときくとその方をみる	21.3	47.8	82.5	96.2							
12	「新聞をもって来てちょうだい」などのいいつけに従う	1.1	9.7	53.1	78.8	89.5	97.8	97.1				
13	電話・玄関のベルがなると知らせようとする	1.1	7.0	42.3	69.9	85.2	93.1	94.2				
14	「お目々は」「お口は」…ときくと2か所以上指す		6.5	23.7	*65.7	83.3	97.0	98.3				
15	絵本で「ワンワンどれ」などきくと4つ以上のものを指す		6.5	24.2	*55.9	84.3	95.7	98.8	100			
16	母親の要求に応じて食事・入浴を家族にいらせる		0	6.2	31.8	*43.8	81.0	83.3	94.4	97.8	97.9	100
17	絵本で問いかけに応じて10以上ものを指す		1.1	2.1	17.4	*44.8	80.6	88.8	97.5	99.6	98.3	100
18	二つの内容を含むいいつけをまちがいなくやる		0.5	12.9	31.4	44.8	74.1	85.8	92.2	94.3	95.5	100
19	絵本をよんでもらいたがり一冊読み終るまできく		2.2	21.6	31.8	45.2	67.2	72.1	76.7	82.6	86.5	99.2
20	何冊かの絵本の中から指定された本をもってくる		0	4.6	23.7	38.1	63.8	68.8	83.2	87.8	91.0	100
21	大きい、小さいということがわかる				5.9	17.1	44.8	65.4	86.3	94.8	91.3	94.9
22	上・下・中の位置の中2か所以上わかる				10.2	17.1	39.7	*50.0	77.6	81.7	88.2	83.8
23	欲しいものがあってもいいきかせると我慢してまつ				11.9	29.1	50.4	59.6	71.7	76.5	80.2	83.1
24	「赤はどれ」…ときくと3色以上の色を正しくさす				2.1	12.9	30.6	42.1	62.4	72.6	83.3	89.0
25	ことばで表現しきれないものを「コウナッテコウナッテ」と説明							25.9	48.5	65.3	80.8	81.4
	26問以降の調査数							54	67	62	60	59
26	自分の性を正しく言う							*13.9	38.8	*50.8	81.7	91.5
27	お話をしてもらいたがり話がとぎれると催促する							35.2	*36.6	66.9	79.2	73.7
28	2つまでまちがいなく渡す							26.9	58.0	62.1	71.7	79.7
29	前・後・横の位置のうち2か所以上わかる							28.7	*53.7	51.6	70.0	63.6
30	ごっこ遊びで役割をとって遊ぶ					2.9	10.8	28.3	*43.2	60.4	*57.6	*55.9

太線の枠は質問項目の配置年齢段階を示す。

第6表-2. 言語発達スクリーニングテスト通過率(女)——理解——

番号	質問項目	年齢										
		0:8 ~0:10	0:11 ~1:1	1:2 ~1:4	1:5 ~1:7	1:8 ~1:10	1:11 ~2:1	2:2 ~2:4	2:5 ~2:7	2:8 ~2:10	2:11 ~3:1	3:2 ~3.4
		93	93	97	106	90	109	135	147	129	157	53
1	声をかけると声のした方をみる	100										
2	音や話し声をじっと聞く	97.8										
3	母親の声をききわける	90.9	98.9									
4	名前を呼ばれるとその方をみる	91.4	98.9									
5	笑顔や怒った顔の表情がわかる	88.7	95.2									
6	誘いかけに応じてバイバイなどの動作をする	*66.7	92.5	97.9								
7	「ちょうだい」と手を出すもっているものを渡す	28.0	90.3	96.9								
8	「いけません」というと手をひっこめる	50.5	82.3	94.9	97.6							
9	離れた所にあるものを促されてみつける	20.4	70.4	90.2	96.7							
10	「いらっしゃい」「たち」などことばだけでわかる	18.3	57.5	96.2	98.6							
11	「パパどこ」「ママは」ときくとその方をみる	26.3	60.8	92.8	98.1							
12	「新聞をもって来てちょうだい」などのいいつけに従う		9.7	59.3	84.4	93.3	98.6	100	99.7			
13	電話・玄関のベルがなると知らせようとする		7.0	41.8	74.5	80.0	89.0	97.0	100			
14	「お目々は」「お口は」…ときくと2か所以上指す		5.9	41.2	*79.3	93.3	97.3	100				
15	絵本で「ワンワンどれ」などきくと4つ以上のものを指す		6.5	38.1	*75.5	87.2	94.5	99.6	99.7			
16	母親の要求に応じて食事・入浴を家族に知らせる			11.9	32.9	*66.7	86.7	93.3	99.0	98.4	98.7	
17	絵本で問かけに応じて10以上のものを指す			7.2	35.4	*62.2	81.7	94.4	98.0	98.4	100	
18	二つの内容を含むいいつけをまちがいなくやる			11.9	40.1	54.4	72.9	88.9	96.9	99.2	97.1	
19	絵本をよんでもらいたがり一冊読み終るまできく			14.4	37.3	50.0	63.3	82.2	86.7	82.9	94.9	
20	何冊かの絵本の中から指定された本をもってくる			7.2	27.4	46.7	57.3	75.6	88.1	88.8	90.8	
21	大きい、小さいということがわかる				8.5	25.0	42.2	67.4	82.7	96.1	95.9	99.1
22	上・下・中の位置の中2か所以上わかる				9.4	23.9	41.3	*63.7	73.8	91.9	94.3	89.6
23	欲しいものがあってもいいきかせると我慢してまつ				20.8	31.1	45.9	62.6	78.6	81.4	86.9	85.8
24	「赤はどれ」…ときくと3色以上の色を正しくさす				6.1	11.1	23.4	48.9	64.6	83.7	88.5	84.9
25	ことばで表現しきれないものを「コウナッテコウナッテ」と説明							31.0	53.7	79.5	80.4	86.8
	26問以降の調査数							63	54	61	69	53
26	自分の性を正しく言う							*33.3	50.0	*80.3	84.8	97.2
27	お話をしてもらいたがり話がとぎれると催促する							48.4	*56.5	69.7	79.7	84.9
28	2つまでまちがいなく渡す							34.1	46.3	76.2	79.0	84.9
29	前・後・横の位置のうち2か所以上わかる							23.0	*29.6	57.4	65.9	76.4
30	ごっこ遊びで役割をとって遊ぶ				1.4	1.7	12.4	38.1	*61.2	71.3	*75.2	86.8

太線の枠は質問項目の配位年齢段階を示す。

第6表-3 言語発達スクリーニングテスト通過率(男) 表出 * 5%危険率で男女差のある項目

番号	質問項目	年齢										
		0:8 ~0:10	0:11 ~1:1	1:2 ~1:4	1:5 ~1:7	1:8 ~1:10	1:11 ~2:1	2:2 ~2:4	2:5 ~2:7	2:8 ~2:10	2:11 ~3:1	3:2 ~3:4
調査数		87	93	97	118	105	116	120	161	115	144	59
1	ア-ア-ウ-ウなど声を出す	100										
2	あやすと声を出したり、笑ったりする	100										
3	声をたてて笑う	100										
4	声をだして要求したり、大人の注意をひく	94.3										
5	バーバー、マンマンなど唇や舌を使った音を出す	90.8	97.8									
6	食物をみるとマンマのような音を出す	48.9	83.9	92.3	99.6							
7	咳・舌うち・笑い声などをまねる	44.3	74.2	87.6	94.5							
8	マンマ、ブーブなどくり返して話しかけると似た音を出す	41.4	71.5	91.2	95.8							
9	話しことばのような調子で声を出す	37.4	60.2	78.9	88.6	94.3	98.7					
10	意味のあることばを言う	20.1	55.9	86.1	96.2							
11	母を「ママ」「チャーチャン」などという	2.9	16.1	*44.3	*73.7	86.7	94.4	97.5	100			
12	絵や物をさしてその名前をいう	0	11.3	37.6	70.3	87.6	93.1	96.7	99.4			
13	手をふりながら「バイバイ」という	1.1	10.2	*41.2	69.5	88.6	95.3	98.3	99.7			
14	要求をことばで言う	0	9.7	35.6	64.0	84.8	93.1	97.9	99.7	99.1		
15	おとなの言ったことばをまねる	0	9.1	28.9	58.5	73.3	90.1	93.8	99.7	99.1		
16	名前を呼ばれると返事をする	0	1.1	1.5	30.9	59.5	72.4	82.5	88.5	93.0	92.0	82.2
17	「パパ」「ママ」と呼びかけて、要求をことばでいう	0	0	0	12.3	*28.6	68.5	84.6	95.0	99.1	98.6	
18	二語文を話す	0	0	0	9.3	*25.7	66.0	*80.8	95.0	99.1	99.0	
19	友だちの名前を覚えていう	0	1.1	2.6	14.4	*31.9	63.8	*75.4	91.0	90.9	97.2	
20	簡単な質問にことばで答える	0	1.1	0	11.9	*31.0	65.5	78.8	93.2	97.0	98.6	
21	自分のことを名前でいう	0	0	0	7.2	*26.7	*54.7	*73.8	93.2	93.5	98.3	
22	「コレナニ、コレナニ」とききたがる	0	0	0	4.2	11.9	41.3	*62.8	85.1	92.6	94.8	99.2
23	「ボク、自動車」など助詞を使った修飾文を言う	0	0	0	0.9	4.8	35.3	*50.0	90.1	96.5	95.8	100
24	絵をみて簡単な叙述をする	0	0	0	1.7	1.9	29.7	*43.8	79.2	89.6	94.1	95.8
25	「いくつ」ときくと年齢を答える	0	0	0	9.8	22.9	34.9	*49.6	73.0	87.4	85.4	93.2
	26問以降の調査数							54	67	62	60	59
26	「名前は」ときくと姓をいう	0	0	0	0	0	13.4	*32.4	56.0	*69.4	88.3	94.1
27	4~5語文を話す	0	0	0	0	0	9.1	*22.2	46.3	69.4	*75.8	88.1
28	両親の姓を言う	0	0	0	0	0	4.8	*9.3	26.9	*36.3	61.7	68.6
29	「...から...なった」と原因・結果を関係づけて話す	0	0	0	0	0	10.2	26.1	*41.1	64.2	68.6	
30	昨日、今日、明日などのことばを使って話す	0	0	0	0	0	14.8	28.4	*41.1	61.7	72.0	
31	接続詞を使って話す	0	0	0	0	0	13.9	27.6	*37.9	*59.2	73.7	

太線の枠は質問項目の配置年齢段階を示す。

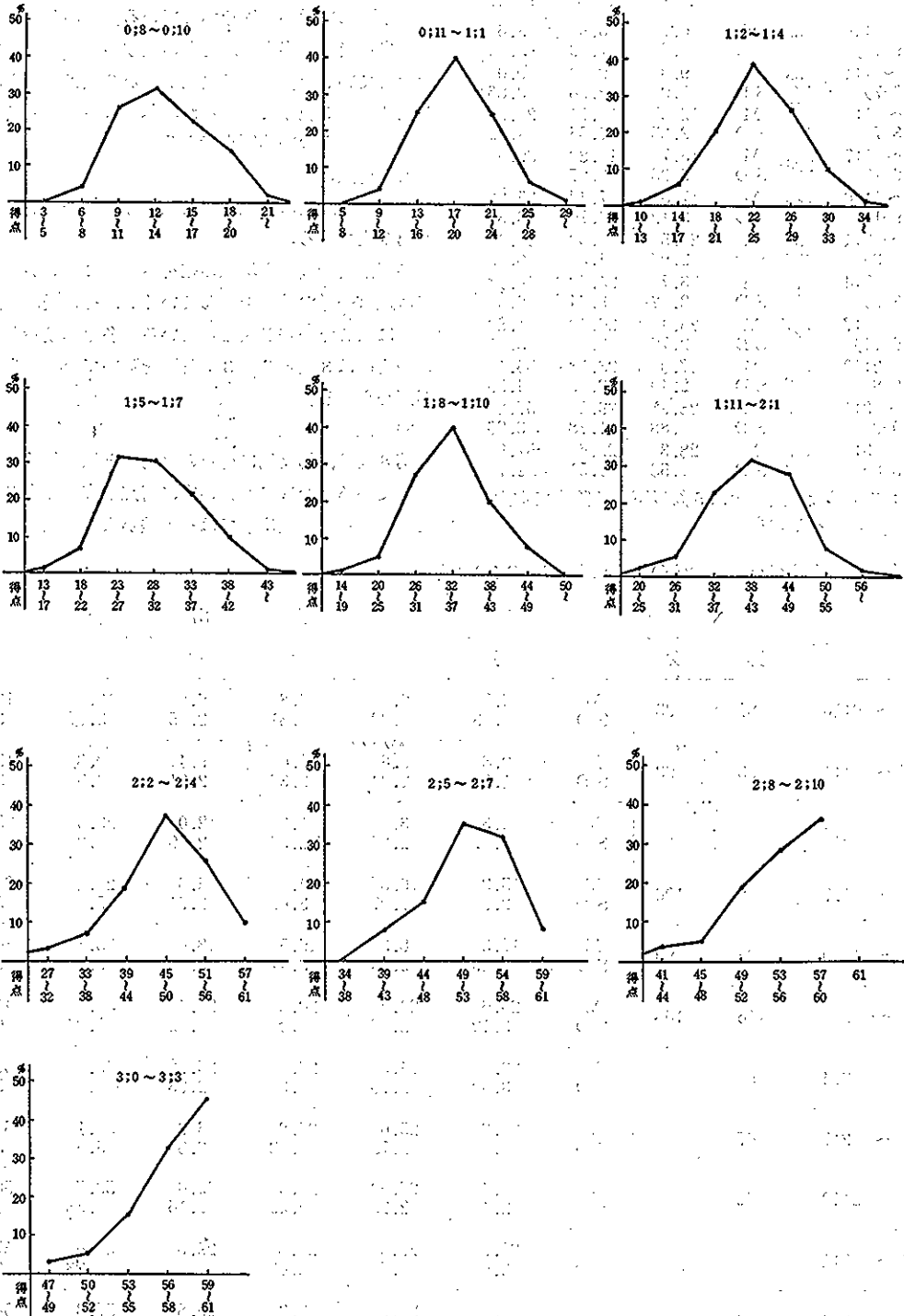
第6表-4 言語発達スクリーニングテスト通過率(女)——表出——

番号	質問項目	年齢										
		0:8 ~0:10	0:11 ~1:1	1:2 ~1:4	1:5 ~1:7	1:8 ~1:10	1:11 ~2:1	2:2 ~2:4	2:5 ~2:7	2:8 ~2:10	2:11 ~3:1	3:2 ~3:4
		93	93	97	106	90	109	135	147	129	157	53
1	アアー・ウーウなど声を出す	100										
2	あやすと声を出したり、笑ったりする	100										
3	声をたてて笑う	98.9										
4	声をだして要求したり、大人の注意をひく	92.5	98.4									
5	パーパー、マンマンなど唇や舌を使った音を出す	86.0	99.5									
6	食物をみるとマンマのような音を出す	47.3	86.4	92.8								
7	咳・舌うち・笑い声などをまねる	55.9	78.5	86.0	97.2							
8	マンマ、ブーブなどくり返して話しかけると似た音をだす	46.2	80.1	89.7	99.1							
9	話しことばのような調子で声を出す	37.6	63.4	81.4	95.8							
10	意味のあることばを言う	23.7	61.2	92.3	100							
11	母を「ママ」「チャーチャン」などという	2.2	23.1	*60.3	*91.0	96.7	98.2	100				
12	絵や物をさしてその名前をいう	1.1	11.3	40.7	81.1	92.8	97.7	99.6				
13	手をふりながら「バイバイ」という	3.2	11.8	*56.2	79.7	94.4	98.2	99.3				
14	要求をことばで言う		8.1	46.9	76.4	90.6	97.3	99.6				
15	おとなの言ったことばをまねる		13.4	38.7	70.8	85.0	92.7	97.8	100			
16	名前を呼ばれると返事をする			2.1	40.1	71.7	78.4	89.3	92.9	95.3	94.6	95.3
17	「パパ」「ママ」と呼びかけて、要求をことばでいう			3.1	18.4	*50.6	72.5	93.3	98.6	98.1	100	
18	二語文を話す			3.1	19.4	*48.9	72.9	*93.7	98.3	100	100	
19	友だちの名前を覚えていう			6.7	24.5	*48.9	72.5	*91.9	95.9	98.4	99.7	
20	簡単な質問にことばで答える			1.6	22.6	*46.1	69.7	90.3	96.6	97.7	100	
21	自分のことを名前でいう			3.1	20.3	*51.1	*70.2	*92.2	97.3	99.6	100	
22	「コレナニ、コレナニ」とききたがる				9.0	26.7	49.5	*82.6	91.2	85.7	96.8	97.2
23	「ボクノ自動車」など助詞を使った修飾文を言う				4.3	15.6	46.8	*77.4	91.2	98.1	98.7	100
24	絵をみて簡単な叙述をする				1.9	13.9	38.5	*67.0	87.8	96.5	98.4	99.1
25	「いくつ」ときくと年齢を答える				12.7	31.7	44.0	*66.7	77.6	93.8	93.0	95.3
	26問以降の調査数							63	54	61	69	53
26	「名前は」ときくと姓名をいう						13.2	*54.8	68.5	*86.1	91.3	98.1
27	4~5語文を話す						7.9	*41.3	50.0	82.8	*93.5	90.6
28	両親の姓名を言う						4.2	*25.4	42.6	*59.8	76.1	78.3
29	「…から…なった」と原因・結果を関係づけて話す							21.4	35.2	*71.3	72.5	84.9
30	昨日・今日・明日などのことばを使って話す							30.2	31.5	*63.1	73.9	72.6
31	接統詞を使って話す							20.6	37.0	*68.9	*78.3	72.6

太線の枠は質問項目の配置年齢段階を示す。

佐野他：乳幼児の言語発達スクリーニングテストの作成に関する研究

第1図 言語発達スクリーニング得点分布



第7表 言語発達得点の平均値(M)と標準偏差(SD)

年齢段階 (平均年齢)	N		理解		表出		合計	
			M	SD	M	SD	M	SD
0:8 ~ 0:10 (0:9-14)	180	M	6.7*	1.83	6.9*	1.99	13.6*	3.40
		SD						
0:11 ~ 1:1 (1:0-7)	186	M	9.8*	1.96	9.2*	2.28	19.0*	3.86
		SD						
1:2 ~ 1:4 (1:3-7)	194	M	12.6*	2.35	11.7*	2.55	24.3*	4.42
		SD						
1:5 ~ 1:7 (1:6-10)	224	M	15.7*	3.03	14.8*	3.07	30.6*	5.61
		SD						
1:8 ~ 1:10 (1:9-10)	195	M	17.8*	3.12	17.4*	3.70	35.2*	6.33
		SD						
1:11 ~ 2:1 (2:0-3)	225	M	20.5*	2.96	20.9*	4.30	41.4*	6.65
		SD						
2:2 ~ 2:4 (2:3-9)	117	M	23.7*	3.12	24.4*	3.94	48.1*	6.55
		SD						
2:5 ~ 2:7 (2:6-11)	121	M	25.4*	2.76	26.4*	3.14	51.8*	5.41
		SD						
2:8 ~ 2:10 (2:9-8)	123	M	27.0*	2.40	28.1*	2.49	55.1*	4.59
		SD						
2:11 ~ 3:1 (3:0-9)	129	M	28.0*	1.88	29.2*	1.78	57.2*	3.26
		SD						
3:2 ~ 3:4 (3:3-8)	112	M	28.3	1.53	29.6	1.51	57.9	2.73
		SD						

*印:各年齢段階間の値に5%以下の危険率で有意差のあるものを示す。

第8表 言語発達得点の平均値(M)と標準偏差(SD)(男・女別)

年齢段階	N			理解		表出		合計	
	男	女		男	女	男	女	男	女
0:8 ~ 0:10	87	93	M	6.7	6.8	6.8	6.9	13.5	13.7
			SD	1.73	1.93	1.81	2.15	3.07	3.68
0:11 ~ 1:1	93	93	M	9.8	9.8	9.0	9.4	18.8	19.2
			SD	1.90	2.04	2.38	2.21	3.86	3.81
1:2 ~ 1:4	97	97	M	12.3	13.0	11.3	12.0	23.6	25.0
			SD	2.42	2.24	2.34	2.69	4.29	4.42
1:5 ~ 1:7	118	106	M	15.3	16.3*	14.1	15.6*	29.4	31.9*
			SD	2.99	2.97	3.02	2.91	5.51	5.39
1:8 ~ 1:10	105	90	M	17.3	18.3*	16.5	18.6*	33.8	36.9*
			SD	3.19	2.94	3.47	3.62	6.18	6.07
1:11 ~ 2:1	116	109	M	20.6	20.4	20.3	21.4	40.9	41.9
			SD	3.12	2.76	4.48	4.02	7.04	6.18
2:2 ~ 2:4	54	63	M	23.0	24.3*	22.8	25.9*	45.8	50.1*
			SD	3.39	2.75	4.31	2.93	7.05	5.36
2:5 ~ 2:7	67	54	M	25.2	25.6	25.8	26.9	51.1	52.5
			SD	4.19	2.78	4.12	2.85	5.51	5.19
2:8 ~ 2:10	62	61	M	26.4	27.5*	27.3	29.0*	53.7	56.5*
			SD	2.42	2.25	2.49	2.16	4.58	4.15
2:11 ~ 3:1	60	69	M	27.9	28.0	28.8	29.6	56.6	57.7
			SD	2.03	1.74	2.00	1.45	3.73	2.71
3:2 ~ 3:4	59	53	M	28.0	28.8	29.3	29.8	57.3	58.6
			SD	1.67	1.34	1.61	1.33	2.91	2.32

*男女間の値に5%以下の危険率で有意差のあるものを示す。

を基準にして区分してある。図で明らかなように、2歳段階までは平均得点を中心に、ほぼ左右対称の分布になり正規分布に近い曲線を示している。しかし、2歳3か月段階以後は、得点の頭打ちの現象がみられ正規分布にはなっていない。これは質問項目が3歳で打切られているため当然な現象ではあるが、基準設定のうえで考慮しなければならない問題点である。

2) 得点の平均値

各年齢段階別に得点の平均値と標準偏差を示したものが第7表である。

各年齢段階間の平均値の差をみると2歳3か月段階まではほぼ一様な差で上昇しているが、その後は得点の頭打ちになるため差が狭まっている。各年齢段階間の得点の平均値は3歳と3歳3か月間を除いていずれも有意差が認められる。

3) 性差

第8表は、男女別に得点の平均値と標準偏差を示したものである。全般に女児の方に得点が高い傾向がみられており、特に「表出」ではその差が大きくなっている。

第9表-1 言語発達得点(合計)の平均値と標準偏差(地域別)

年齢段階	愛 育		佼 成		大 津		高 島 平		保 育 所	
	N	△	N	△	N	△	N	△	N	△
0:8~0:10	43 (0:9-11)	13.8 3.22	37 (0:9-5)	13.0 2.68	54 (0:9-7)	14.0 3.72	26 (0:10-7)	15.0 3.77	20 (0:9-29)	11.6 3.40
0:11~1:1	42 (1:0-4)	19.0 2.98	31 (1:0-3)	20.6 3.01	69 (0:11-27)	18.5 3.80	23 (1:1-14)	19.0 4.06	21 (1:0-13)	18.1 5.45
1:2~1:4	34 (1:3-18)	24.9 4.41	31 (1:3-1)	25.3 3.47	84 (1:2-28)	24.9 4.25	20 (1:3-19)	23.0 3.60	25 (1:3-20)	21.4 4.93
1:5~1:7	34 (1:6-17)	29.1 5.55	33 (1:6-2)	31.0 5.27	91 (1:5-27)	31.4 6.64	38 (1:6-29)	30.6 5.23	28 (1:6-25)	29.4 4.21
1:8~1:10	34 (1:9-13)	36.7 6.19	19 (1:9-4)	34.1 4.95	86 (1:8-28)	35.9 6.66	21 (1:9-27)	34.5 6.41	35 (1:9-12)	33.2 5.74
1:11~2:1	43 (2:0-8)	41.0 6.45	34 (2:0-9)	42.3 6.34	81 (1:11-26)	42.6 6.38	30 (1:11-26)	38.5 6.83	37 (2:0-12)	40.4 6.71
2:2~2:4	42 (2:3-16)	49.0 5.88	35 (2:3-14)	47.3 8.00	40 (2:2-29)	48.0 5.66				
2:5~2:7	51 (2:6-15)	52.6 5.30	36 (2:6-16)	51.7 4.74	34 (2:5-29)	50.6 5.97				
2:8~2:10	53 (2:9-11)	55.1 4.99	37 (2:9-9)	55.7 3.27	33 (2:9-3)	54.6 5.09				
2:11~3:1	48 (3:0-16)	57.0 3.34	44 (3:0-9)	57.7 3.13	37 (3:0-0)	56.8 3.31				
3:2~3:4	52 (3:3-10)	57.8 2.74	21 (3:3-11)	58.2 2.83	39 (3:3-3)	58.0 2.63				

△ { 上段: M.
下段: S. D.

N欄()内数字は平均年齢

第9表-2 言語発達得点(理解・表出)の平均値と標準偏差(地域別)

	年齢段階	愛 育		佼 成		大 津		高 島 平		保 育 所	
		M.	S. D.	M.	S. D.	M.	S. D.	M.	S. D.	M.	S. D.
理 解	0: 8~0:10	6.6	1.73	6.4	1.54	7.1	2.03	7.5	1.01	5.9	1.72
	0:11~1:1	9.6	1.53	10.4	1.54	9.8	1.95	10.0	1.98	9.0	2.71
	1:2~1:4	13.0	2.47	12.5	2.04	12.6	2.35	12.0	1.87	10.9	2.39
	1:5~1:7	14.9	2.96	15.8	3.19	15.7	3.03	16.0	2.75	14.5	2.11
	1:8~1:10	18.4	2.79	17.5	2.84	17.8	3.12	17.5	2.66	16.4	2.11
	1:11~2:1	20.0	2.69	20.9	2.62	20.5	2.95	19.5	3.13	20.0	3.04
解	2:2~2:4	24.0	3.07	23.4	3.44	23.6	2.84				
	2:5~2:7	25.7	2.79	25.3	2.65	25.1	2.81				
	2:8~2:10	26.9	2.58	27.2	2.01	26.7	2.52				
	2:11~3:2	27.7	2.02	28.3	1.67	27.9	1.91				
	3:2~3:4	28.4	1.40	28.4	1.73	28.2	1.69				
	表 出	0: 8~0:10	7.3	1.84	6.6	1.58	6.9	2.09	7.6	2.00	5.9
0:11~1:1		9.3	1.89	10.2	1.73	9.2	2.28	9.0	2.42	9.1	3.09
1:2~1:4		11.8	2.41	12.8	3.39	11.7	2.54	11.0	2.21	10.4	2.96
1:5~1:7		14.2	3.15	15.1	2.58	14.8	3.07	14.5	3.05	15.0	2.61
1:8~1:10		18.2	3.83	16.6	3.01	17.5	3.70	17.0	4.24	16.8	3.27
1:11~2:1		21.0	4.46	21.4	4.37	20.9	4.30	19.0	4.17	20.4	4.36
出	2:2~2:4	25.0	3.28	23.9	5.09	24.4	3.31				
	2:5~2:7	26.9	3.07	26.4	2.55	25.4	3.56				
	2:8~2:10	28.1	2.64	28.5	1.82	27.8	2.83				
	2:11~3:1	29.3	1.74	29.4	1.68	29.0	1.94				
	3:2~3:4	29.4	1.73	29.8	1.30	29.7	1.21				

表中*印は危険率5%以下で得点に有意差が認められるものである。

3) 地域差

第9表一1~2は、各調査地点別に得点の平均値と標準偏差を示したものである。調査数が十分でないうえ、平均年齢に差のあるグループもあるため、今回は地域差の検討は行わなかった。

3 検査の検討

1) 信頼性

(1) 折半法による信頼性係数

テストの信頼性を検討するため、各年齢段階別に、奇偶法により折半信頼係数(Spearman-Brownの公式による)を求めた。結果は第10表の通りで、各年齢段階を通じて信頼できる値を得ている。

第10表 奇偶法による折半信頼係数 (Spearman-Brown)

年齢段階	N	rx
0:11~1:1	73	.814
1:5~1:7	67	.883
1:11~2:1	77	.947
2:5~2:7	87	.920
2:11~3:1	92	.863

(2) 再テスト法による信頼性係数

本テストを同一の被験者について、同じ検査条件で、3か月の間隔をおいて施行して、再テスト法による信頼性係数を求めた。3か月の経過により各グループとも合計得点の平均値に約6点の上昇がみられているが、これは第7表の年齢段階別の平均値からみて妥当な数であろう。初回のテスト得点と2回目のテスト得点の相関は第11表の通りである。

再テストを施行したのは2歳段階までであって、すべての年齢段階について検討を行っていないが、1歳0か月から1歳3か月へ経過のグループでやや値が低い以外は十分高い信頼度が得られている。

第11表 再テスト法による信頼係数 (テスト間隔3か月)

年齢段階	N	r		
		合計得点	理解得点	表出得点
0:9 → 1:0	19	.797	.843	.609
1:0 → 1:3	33	.600	.546	.661
1:3 → 1:6	34	.789	.700	.755
1:6 → 1:9	30	.886	.862	.848
1:9 → 2:0	35	.851	.834	.767

(3) 内部相関

このテストは、言語活動という一つの領域の発達を調べようとするものであるが、その機能を理解と表出の二つの側面からとらえようとした。理解も表出も、もともと同じ言語活動の領域であり、理解なくして表出できるという性質のものではないので、この両者はかなり深い関連をもって発達するものと考えられる。この点について検討するため、本テストの内部相関を求めた。結果は第12表に示したように、理解・表出とも合計得点との相関は高いが、理解と表出との間の相関は、.5~.6であり、この両者の機能をわけてとらえることは有意味であると考えられる。

第12表 言語発達スクリーニングテスト得点の内部相関

年齢段階	N	理解・表出	理解・合計	表出・合計
0:11~1:1	96	.622	.919	.914
1:5~1:7	105	.588	.897	.886
1:11~2:1	107	.648	.865	.942
2:5~2:7	87	.629	.878	.910
2:11~3:1	92	.620	.824	.869

2) 妥当性

(1) 乳幼児精神発達検査との相関

テストの妥当性を検討するためには、そのテストと既存の同種の信頼性あるテストとの相関をみる方法が用いられることが多い。しかし、1歳から3歳の年齢段階の言語発達について標準化されたテストが見当たらない。

そこで、言語発達スクリーニングテストの得点と、乳幼児精神発達検査の発達年齢との相関をみた。もちろん、言語発達が一般的な精神発達と同一特性を有するものとは考えないが、精神発達は言語発達を規定する大きな要因と考えられるので一つのよりどころになるであろう。この検討のための対象者は日本総合愛育研究所教養相談室に来所した2歳5か月から3歳3か月までの正常発達を示している幼児33名であり、乳幼児精神発達検査と言語発達スクリーニングテストを同時に施行したものである。

結果は第13表に示した通りで、それぞれ高い相関が得られた。当然のことながら、表出得点に比し理解得点の方が発達年齢との相関が高くなっており、理解得点から精神発達遅滞児の選別の可能性が考えられる。しかし、調査数が少ないこと、1歳段階の子どもについての検討がまだされていないことなど、今後の問題として残されている。

第13表 乳幼児精神発達検査のM:Aと
言語発達得点の相関 (N=33)

	r
合計得点	.731
理解得点	.781
表出得点	.662

(2) 言語発達遅滞児への適用

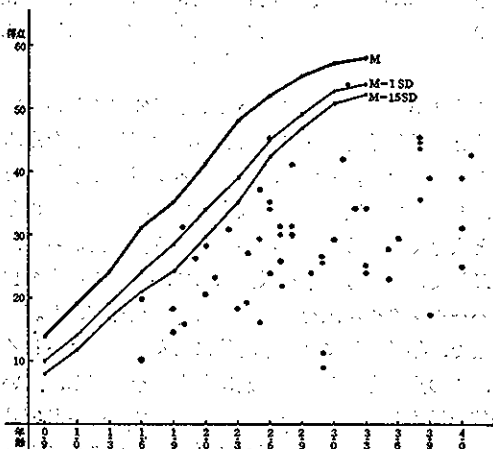
本テストを言語発達の遅れが心配される事例に適用して、その結果を検討することによりテストの妥当性を吟味しようとした。

対象は、日本総合愛育研究所の教養相談室へことばの遅れを主訴として来所した幼児53名である。年齢は1歳児7名、2歳児26名、3歳児16名、4歳児4名であり、来所時に行った乳幼児精神発達検査の結果、発達指数の平均値は74.1、標準偏差は19.2である。

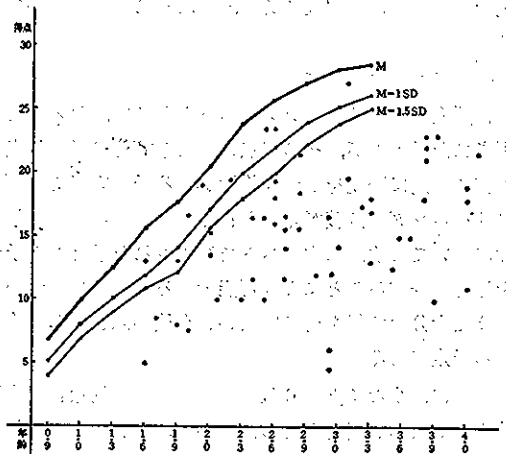
言語発達スクリーニングテストの結果は、第2図-1～3により得点の分布を示したが、合計得点の分布をみると平均値からマイナス1標準偏差の線上にあるもの、すなわち正常発達の限界内にあると考えられるものが3名ある以外は、いずれも各年齢段階の平均値を大きく下まわっていることがわかる。

これを理解と表出の各側面別にみると、理解の得点では正常発達の範囲内にあるものが7名あるが、表出面ではいずれも平均値からマイナス1標準偏差の線を下まわっており、全員に表出言語の発達の遅れが認められる。これらからみて、本テストは、言語発達遅滞児に対し十分な選別力をもつものと考えられる。また、言語発達の遅れを問題にする時、一般には表出言語のみに注目していることも明らかである。しかし、言語発達を理解・表

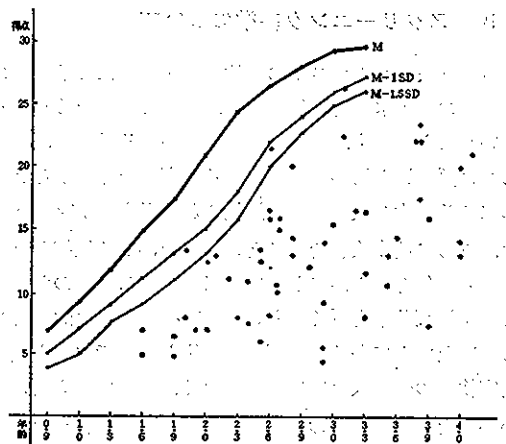
第2図-1 言語発達遅滞児の得点(合計)の分布



第2図-2 言語発達遅滞児の理解得点の分布



第2図-3 言語発達遅滞児の表出得点の分布



出の両側面にわけて発達状態を把握することにより、子どもの発達の特性、言語障害の原因、言語発達の予後などについてある程度の見通しをもつ可能性が考えられ、今後の指導に役立てることもできよう。ちなみに、理解言語の発達が正常であった7名の幼児の発達指数の平均値は107であり、知能、対人関係の発達には障害がなく、言語の遅れが表出面だけに限定されていると考えられる事例であった。

第14表 乳幼児精神発達検査のM:Aと
言語発達得点の相関 (N=53)

言語発達得点	r
合計	.842
理解	.835
表出	.783

言語発達得点と乳幼児精神発達検査の発達年齢との相関をみたものが第14表であり、それぞれ高い値を得ている。

(3) 予測性について

言語発達スクリーニングテストとしては、テストで選別された子どもが、その時点のみでなくその後の時点でも言語発達に問題をもつ危険性がある子どもであればスクリーニングの意義が認められるわけである。この予測性についての検証は本テストで選別された子どもの予後を追跡調査することにより可能であるが、これについてはまだ十分な資料を得ていない。今後の課題として検討する予定である。

さらに、少なくとも6歳程度までの標準的な言語発達検査としての資料をととのえる中で、言語発達の段階的な特徴をとらえることを通じて発達予測性を検討することも今後の課題と考える。

IV スクリーニング基準について

スクリーニングテストの目的は、テストにより個々の子どもの発達水準を評価したり、障害の原因を診断するというよりも、言語発達に問題がある子ども、すなわち言語発達遅滞のおそれのある子どもを選別するところにある。大多数の中から選別された子どもについては、さらに精密検査をしてその実態を詳しく把握したり障害の有無を明らかにしていく必要がある。このため、どこに選別基準を置くかということが重大な問題となる。いたずらに多くの子どもを選別したのでは、事後の精密検査の労が大きいばかりでなく、母親には必要のない不安を与え子どもの発達に好ましくない影響を及ぼすおそれもあるであろう。また、特に遅れの著しい子どもに焦点を絞れば、選別から漏れる問題をもつ子どもが出て来てスクリーニングテストとしての役割を果たせない。

標準的発達という概念については、基準のよりどころにいくつかの考え方があるが、平均値を中心に上下それぞれ1標準偏差内にあるものを標準的発達と考える場合が比較的多く、正規分布の場合はこの範囲内に68.3%が入る。この考え方に基づいて、平均値より1標準偏差だけ下に選別の基準点を設ければ、言語発達得点の低い約16%の子どもが選別されることになる。言語発達の特性や、スクリーニングテストの意味を考えた場合、やはりこの辺に基準点を設けることが妥当であろうと考えられる。

選別基準点を設定するため、本検査の理解・表出・合計のそれぞれの得点を標準偏差により平均値からの得点

差で段階に区分し、その分布率をみたものが第15表-1~2である。この表を作成するために用いた資料の年齢範囲は、ほぼ正規分布をしている8か月以上2歳1か月までであって、得点の頭打ち現象が表われている2歳2か月以後は加えていない。表に示したように、平均値から1標準偏差だけ下に選別基準点を設定した場合、約14~15%の子どもが選別されることになり、また平均値から1.5標準偏差だけ下に選別基準点をおけば約6%の子どもが選別されることになって、正規分布の場合とほぼ等しくなっている。

第15表-1 言語発達得点の段階別分布(合計得点)

言語発達段階	N (1047)	%	累積百分率	
+3	10	1.0	100	
+2	97	9.3	99.0	
+1	247	23.5	89.7	
0	362	34.6	66.2	
-1	268	25.5	31.6	
	M-1SD	84	8.0	14.1
	M-1.5SD	53	5.1	6.1
		10	1.0	1.0

第15表-2 言語発達得点の段階別分布(理解・表出)

言語発達段階	理 解			表 出			
	N (1047)	%	累 積 百分率	N (1047)	%	累 積 百分率	
+3	4	0.4	100	4	0.4	100	
+2	65	6.2	99.6	74	7.1	99.6	
+1	235	22.4	93.4	228	21.8	92.5	
0	405	38.7	71.0	406	38.7	70.7	
-1	270	25.8	32.3	277	26.4	32.0	
	M-1SD	72	6.9	13.4	97	9.3	14.9
	M-1.5SD	64	6.1	6.5	51	4.9	5.6
		4	0.4	0.4	7	0.7	0.7

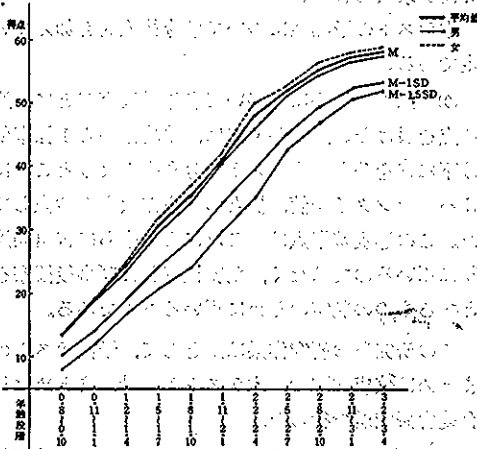
2歳3か月段階以上については正規分布でないため平均値と標準偏差を基準にして直ちに選別基準点を定めることができない。しかし、このテストが同じ手続きで4歳、5歳までの質問項目を設定してあれば、前記の分布率と大きく変わることはないであろう。したがって、この段階では前記分布率を根拠にして、各年齢段階の14~15パーセンタイル値をも考慮して基準点を定めた。

また、年齢段階により平均値に男女差が認められるので、この点も考慮して男女別に基準点を算出し、低い方の値を採用した。このため女兒にとってはやや甘い基準になるということはあるが、スクリーニングテストとし

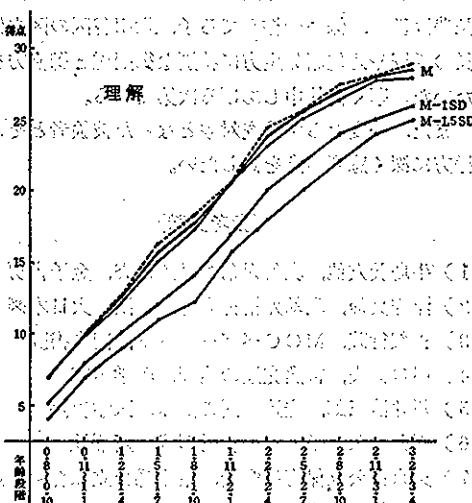
第16表 言語発達スクリーニングテストのスクリーニング基準点

年齢段階	合計得点			理解得点			表出得点		
	平均値	選別基準点		平均値	選別基準点		平均値	選別基準点	
		M-1SD	M-1.5SD		M-1SD	M-1.5SD		M-1SD	M-1.5SD
0:8~0:10	13.6	10	8	6.7	5	4	6.9	5	4
0:11~1:1	19.0	14	12	9.8	8	7	9.2	7	5
1:2~1:4	24.3	19	17	12.6	10	9	11.7	9	8
1:5~1:7	30.6	24	21	15.7	12	11	14.8	11	9
1:8~1:10	35.2	28	24	17.8	14	12	17.4	13	11
1:11~2:1	41.4	34	30	20.5	17	16	20.9	15	13
2:2~2:4	48.1	39	35	23.7	20	18	24.4	18	16
2:5~2:7	51.8	45	43	25.4	22	20	26.4	22	20
2:8~2:10	55.1	49	47	27.0	24	22	28.1	24	23
2:11~3:1	57.2	52	51	28.0	25	24	29.2	26	25

第3図-1 言語発達スクリーニングテストの平均得点とスクリーニング基準点(合計点)



第3図-2 言語発達スクリーニングテストの平均得点とスクリーニング基準点

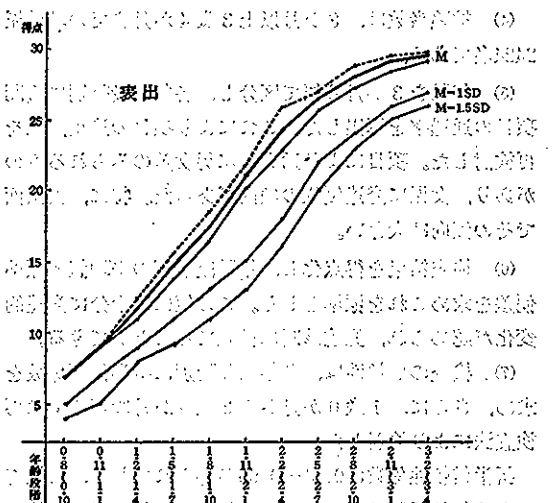


ては問題にする必要はないであろう。

このような経過で設定したスクリーニング基準点が第16表および第3図-1~2である。

表には平均値から1標準偏差分だけ下の基準点と1.5標準偏差分だけ下の基準点とを示してあるが、スクリーニング基準としてはM-1標準偏差の基準点を使用する。M-1.5標準偏差の基準点は発達の逸脱度を知るひとつの手がかりとして付したものである。

本テストの結果を第3図上にプロットすることにより、容易に選別ができるが、被験者の得点がM-1標準偏差の基準点以上の場合、その発達は正常範囲内と考えてよいであろう。もし、基準点に達しない場合は言語発達上注意を要する状態と考へて、さらに詳細な調査をして発達経過の観察を十分にするか、障害の有無について精密検査をするなどの対策を講ずることが必要であらう。



う。

この基準点は年齢段階が3か月の幅で区分されているため、同じ年齢段階でも月齢の低い子どもにとってはやや厳しい基準になる傾向があるので、特に逸脱度の大きくない場合はこの点の含みをもって考える必要がある。

また、このテストの調査対象が東京都とその周辺地区および大津市内の居住者であるため、地域的には都市化の進んだ地区に限られたという片寄りがあり、また、いずれも健康管理や保健指導が行き届いているという特色をもつので、この結果をもって全国基準とすることは適当でないと考えられるが、言語発達の一応の基準とすることはできよう。

V 要 約

(1) 乳幼児健診の場で言語発達の問題が増加しており早期診断・早期対策の必要性が生じている。特に、言語発達においては発達の歪みを予防するという見地からも発達上問題をもちそうな子どもに対し早期から指導することの意義は大きい。このような観点から1歳から3歳未満の子どもの言語発達スクリーニングテストの作成を意図した。

(2) 発達検査項目、行動発達の記述の中から言語発達に関する項目を選択して原案を作成し、愛育病院・佼成病院への来所児を対象に、2回にわたる予備テストを行い、逐次原案を修正した。修正案は言語発達の状態を理解と表出の両側面からチェックする構成になっている。

(3) 本検査は、愛育病院、佼成病院、大津市健康管理センター、高島平保健相談所、世田谷区保育所を基点として行った。

(4) 被験者数は、8か月以上3歳4か月までの乳幼児2424名である。

(5) 年齢を3か月の幅で区分し、各年齢段階別に質問項目の通過率を算出した。これにより項目の適正配置を再検討した。項目により通過率に男女差のみられるものがあり、女兒に発達優位の傾向があった。特に、表出面でその傾向は大きい。

(6) 検査結果を得点化し、年齢段階別の平均値・標準偏差を求めこれを標準とした。この値には十分に発達の変化が認められ、発達診断に役立てることができる。

(7) 検査の信頼性は、各年齢段階別に折半信頼係数を求め、さらに、1歳0か月から2歳0か月段階までは再検査法により検討した。

折半信頼性係数は0.81~0.95が得られており、再検査による信頼係数は0.60~0.89が得られ、信頼できる検査

であるといえる。

(8) 検査の妥当性は、乳幼児精神発達検査との相関と、言語発達遅滞児への適用の結果の分析によって検討した。

本テストの得点と乳幼児精神発達検査の発達年齢との相関は、合計得点で0.73、理解得点で0.78、表出得点で0.66であった。

言語発達遅滞児へ適用した場合、すべての子どもが表出得点で選別基準(M-1標準偏差)を下まわっており、言語発達遅滞児の選別の有効性が明らかになった。この中で、理解得点で選別基準を上まわる子どもはいずれも知能発達正常児であり、言語発達遅滞の要因としての知能遅滞の選別の可能性が示唆される。言語発達遅滞児の本テストの得点と乳幼児精神発達検査の発達年齢との相関は、合計得点で0.84、理解得点で0.84、表出得点で0.78が求められた。

本テストの予測性については今後検討を加えていく予定である。

(9) 以上の結果に基づいて各年齢段階ごとに、選別基準点を設けた。選別基準点は、平均値から1標準偏差だけ下に線をひき、本テストの分布率をよりどころに14~15パーセントイル値、男女の得点差などを考慮して定めた。この選別基準点は、これにより直ちに言語発達の診断に用いるのではなく、精密検査および事後観察を必要とするものの判定のために用いるものである。

この研究班の研究作業は主として、予備テストの集計まとめは佼成病院で、本テストの集計、まとめは日本総合愛育研究所で行った。

なお、本研究の実施にあたっては、大津市健康管理センター所長堀井衛、専門員岩井一正、高島平保健相談所長豊岡艶子、保健婦楯石てる子、世田谷区の区立保育園長の手塚やえ他諸先生方に特別な御配慮と御協力をいただいた。厚く御礼申しあげる次第である。

また、一度ならず調査対象となった被験者とそのお母様方に深く感謝の意を表したい。

〔参考文献〕

- 1) 牛島義友他、乳幼児精神発達検査、金子霞房
- 2) 津守真他、乳幼児精神発達診断法、大日本図書
- 3) 古賀行義、MCCベビータスト、同文書院
- 4) 田口恒夫、言語発達の病理、医学書院
- 5) 新井清三郎、発達診断の臨床、医学書院
- 6) 平井久、子どもの行動形成、新曜社
- 7) 東京都公立保育研究会、東京都公立保育園1歳・2歳児の保育内容の検討、1978。

- 8) 牛島義友, 三歳児の精神発達にかかわるスクリーニングテスト及び精密検査の標準化に関する研究, 日本総合愛育研究所紀要第1集.
 9) 村田孝次, 幼児の言語発達, 培風館

VI 言語発達スクリーニングテストの内容および施行法

1. 質問紙(別記I)
 2. 判定のための手引き
 1) 各質問項目解説(別記II)
 2) テストの目的

このテストは言語発達遅滞のおそれのある子どもをス

クリーニングすることを目的としている。スクリーニングされた子どもについては、さらに精密検査をするか、詳細に調査して障害の有無や治療または指導の必要性を検討する必要がある。

3) 施行法

このテストを施行する場合、検査者が質問事項を母親に問診して、そのような状況での子どもの行動や反応の具体的な例示を求めながら判断して、回答欄のあてはまる所にチェックしていく。具体例は必ず記入しておく。あるいは、母親に直接記入してもらい、その内容について検査者がチェックして、不明な点を明らかにし、不備な点を補足記入して判定する。

〔別記I〕 質問紙

言語発達スクリーニングテスト

姓 名	男 女	記入月日	年 月 日	得 点		
		生年月日	年 月 日	理 解	表 出	合 計
		年 齢	歳 月 日			
回答者		記入者				

下の質問についてあてはまる所を○で囲んで、()内に御記入下さい。

1. 現在お子さんの全般的な発達状況は
 イ. 発達はや早い(良い)方だと思ふ
 ロ. ふつうだと思ふ
 ハ. 遅い方だと思ふ
2. お子さんのことばの発達は
 イ. 早い方だと思ふ
 ロ. ふつうだと思ふ
 ハ. 遅い方だと思ふ
3. お子さんは出産時に異常がありましたか
 イ. ない
 ロ. あった
 それはどんなことですか()
4. お子さんは今までに大きな病気をしましたか
 イ. しない
 ロ. したことがある
 それはどんなことですか()
5. お子さんの聴力は
 イ. 異常ない
 ロ. 聞こえが悪いように思ふ
 ハ. 聴力検査をうけたことがある
 その結果は()
6. きょうだいは
 ()人中の()番目

年 番	質 問 項 目 (ことばの理解)	回答欄		年 番	質 問 項 目 (はなしことば)	回答欄	
		できる	できなかった			できる	できなかった
1 歳 未 満	1 声をかけると声のした方をみますか			1 歳 未 満	1 アーアー、ウーウーなどおはなしをしますか		
	2 近くで音をたてたり、話し声がすると喜んで声を出す。音に合わせて体を動かす。または動きをとめてじっと聞くなどの様子がみられますか				2 あやすと声を出したり、笑ったりしますか		
	3 お母さんの声を聞きわけて、他の人が声をかけても泣きやまないのに、お母さんの声で泣きやみますか				3 声をたてて笑いますか		
	4 自分の名前を呼ばれると、呼ばれたことがわかってその方を見ますか				4 何かして欲しい時、相手をしてもらいたい時など、声を出しておとなの注意をひきますか		
	5 笑顔や怒った顔をしてみせると表情がわかって笑ったり泣きそうになったりしますか				5 ベーバー、ダーダー、マンマンなど唇や舌を使った音を出しておはなししますか		

1 歳	6	おとなの誘いかけに応じて、イヤイヤ、バイバイなどの動作をしますか				6	ミルクや食物をみるとマンマのような音を出しますか			
	7	おとなが「ちょうだい」と手を出すと持っているものをその手にのせることができますか				7	咳、舌うち、笑い声などのまねをしますか			
	8	「いけません」というと、手をひっこめたり、言った人の顔を見てやめますか				8	マンマ、プーブなど言ったり繰り返し話しかけると、まねをしてそれに似た音を出しますか			
	9	少し離れた所にあるものでも「ワンワンよ」「プーブー」など言って注意を促すとみつめることができますか				9	意味のあることばではないが話しことばのような調子でおはなしますか			
	10	「いらっしゃい」「たち」など手招きや身ぶりをしなくても、ことばだけで音ってわかりますか わかることばをかいて下さい				10	意味のあることばが言えますか 言える言葉をかいて下さい			
	11	「パパはどこ」「ママは」ときくとその方を見ますか(パパ、ママ両方ともわかることが必要です)								
1 歳 半	12	「新聞を持ってきてちょうだい」など簡単ないつけにことばだけで従うことができますか どんなことができますか				11	お母さんに向けて「ママ」「チャーチャン」といいますか			
	13	電話や玄関のベルが鳴ると、お母さんの方を見て声を出したり指さしたりして知らせようとしますか				12	絵や物をさして自分から(または、「これなあに」ときくと)その名前をいいますか 言えることばをかいて下さい			
	14	「お目々は」「お口は」「お鼻は」「お手々は」ときくと2か所以上正しく指さしますか 指させるものをかいて下さい				13	手を振りながら「バイバイ」といいますか			
	15	絵本を見せて「ワンワンどれ」などときくと4つ以上のものについて正しく指さしますか 指させるものをかいて下さい				14	自分の欲しい物をことばで要求することができますか 例えば、プーブー、オプ、チョーダイなどどんなことがいえますか			
	16	お母さんの要求に従って、食事、入浴などをお父さんや家族に知らせることができますか どうやってしらせますか				15	おとなの言ったことばの一部をまねしていうことがありますか			
2 歳	17	絵本をみせて「コップはどれ」「お靴は」などと聞くと身辺のもの10こ以上について正しく指さしますか				16	名前を呼ばれると「ハイ」と返事をしますか			
	18	「おみかんを持って来て、パパにあげてちょうだい」のように、二つの動作を含む簡単ないつけをまちがいがなくやることができますか				17	お父さんやお母さんに何かして欲しい時「パパ」「ママ」などと呼びかけて要求しますか 例えば、ママジュース、パパアンボウ、など どんなことがいえますか			
	19	自分から絵本を持ってきて読んでもらいたがり、1冊読み終るまで、お話をよく聞いていますか				18	「パパ、カインヤ」「オンモ、イコウ」などのように2つのことばをつないで話しますか 例えばどんなことがいえますか			
	20	「電車の本」「三匹の子豚の本」などと言うと、いく冊かの本の中から指定された本をもってこることができますか 何冊ぐらいの本がわかりますか(冊)				19	友だちの名前を覚えて言いますか			
	21	大きい、小さいということがわかり「大きいボールはどれ」「小さいのは」ときくと正しく指さしますか				20	簡単な質問にことばで答えられますか 例えば「パパは？」→カインヤ 「お姉ちゃんは？」→ガツコウなど どんなことがいえますか			
	22	「机の上において」「机の下において」などことばだけで、上、下、中などがわかり正しく指示に従えますか (2つ以上正しくおけることが必要です)				21	自分のことを名前で言いますか どういいますか			
2 歳 半	22	「コレナアニ」または「ナニ、ナニ」とききたがりますか				22	「ボクノ自転車」「ママノ靴」のように「誰々の何々」という表現ができますか			
	23	「机の上において」「机の下において」などことばだけで、上、下、中などがわかり正しく指示に従えますか (2つ以上正しくおけることが必要です)				23	絵をみて「これは何をしているの」ときくと「ネンネンテイル」「ゴハンタベテル」(ネンネ、ゴハンだけでなく)というように答えられますか			
	23	欲しいものがあるても「あとで」といいきかせると少しの間我慢できますか				24				

3歳	24	「赤はどれ」「黄色は」「青は」などときくと3色以上の色を正しく指さしますか 指させる色をかいて下さい ()	25	「いぐつ」ときかされると、自分の年齢をおくちで言えますか
	25	ことばで表現しきれないものを「コウナッテ、コウナッテ、コウイウノ」というような表現を使って手ぶり身ぶりで表現しようとしていますか	26	「お名前は」ときくと、姓名を言うことができますか
	26	「○○ちゃんは男の子、女の子？」というききかたをしたとき「男ノ子」または「女ノ子」というように自分の性を正しく言えますか	27	4～5語つなげた文で話しますか 例えば ママト、デンジャニソッテ、デパートへ、イッタ どんなことがいえますか ()
	27	お話をしてもらいたがり、聞いていた話が途切れると催促しますか	28	「お父さんの名前は」「お母さんの名前は」ときくと両親の姓名を正しく答えますか (両親とも正しく言えることが必要です)
	28	「2つちょうだい」「3つちょうだい」というと2つまでまちがいがなくその数を渡すことができますか	29	「……から……なった」と原因と結果を関係づけて話しますか 例えば：オニイチャンガイジメタカラ泣イタ オ顔スイタカラ何カタベタイ 例をかいて下さい()
	29	「…の前において」「…の後において」「…の横において」というと、ことばだけで前・後・横の位置がわかり正しくおきますか (2つ以上正しくわかることが必要です)	30	昨日、今日、明日などのことばを使って話しますか 例えばキノウ、ユウエンチヘイッタノ 例をかいて下さい()
30	ままごと、乗物ごっこなどで、お母さん、赤ちゃん、車掌さんなどの役割をとって、そのつもりになって遊びますか どんな役割ができますか ()	31	「それで…」 「それから…」などのように接続詞を使って話しますか 使える接続詞をかいて下さい()	

〔別記Ⅱ〕 項目解説(言語発達スクリーニングテスト)

理 解	表 出
1. 声をかけると声のした方をみますか 音源をさがす、音源の方をみるなどの反応がみられればよい。	1. アーアー、ウーウーなどおはなしをしますか。 機嫌のよい時やおとなが話しかけてやった時など喃語を発することがみられればよい。
2. 近くで音をたてたり、話し声がすると喜んで声を出す、音に合わせて体を動かす、または動きをとめてじっと聞くなどの様子がみられますか。 人の話し声、ラジオ、レコードなどに対し聞き取る様子や喜んで聞く反応がみられればよい。	2. あやすど声を出したり、笑ったりしますか。 一人で声を出しているだけでなく、おとなにあやされて応答するように声を出す、笑うなどの反応がみられればよい。
3. お母さんの声を聞きわけて、他の人が声をかけても泣きやまないのに、お母さんの声で泣きやみますか 他の人が声をかけても泣きやまないが、お母さんの声で泣きやむ、他の人が相手をしている時にお母さんの声があると喜ぶなどの反応があればよい。	3. 声をたてて笑いますか おとなにあやされた時に、ほほえむだけでなく声をたてて笑う反応がみられればよい。
4. 自分の名前を呼ばれると呼ばれたことがわかって、その方を見ますか。 ○○ちゃんと呼びかけた時の子どもの反応を聞く単なる音源反応と区別するため、きょうだいのある場合は他の子の名前を呼んだ時と本人の名前を呼んだ時の反応の違い、おとなが他の人と話している時と本人のお名前を呼んだ時の反応の違いなど確かめる。	4. 何かして欲しい時、相手をしてもらいたい時など、声を出しておとなの注意をひきますか。 ひとりあそびにあきて来ると、仕事をしている母親の方を見ながらアーアー声を出して呼ぶとか、人の姿が見えると呼びかけるように声を出すなどがみられればよい。泣く、声を出さずにひっぱるなどは不合格にする。
5. 笑顔や怒った顔をしてみせると表情がわかって笑ったり、泣きそうになったりしますか。 おとなが笑顔を見せると嬉しそうにしたり、笑ったりする、怒った顔をしてみせると表情を固くしたり、べそをかくなどおとなの表情を理解した反応がみられれば合格。 怒った顔をしてみせると、おとなの顔を叩いたり故意に笑いかけてくるなどもよい。	5. パーパー、ダーダー、マンマンなど唇や舌を使った音を出しておはなしをしますか。 母音系の喃語だけでなく、唇や舌を使ったp, b, d, m, t, j, tなどの音が出て来て、喃語の音が多様になって来たか確かめる。 このような音が入って来ていれば合格。

<p>6. おとなの誘いかけに応じてイヤイヤ、バイバイなどの動作をしますか。 模倣行動がみられるかをとらえる。 おとながイヤイヤ、バイバイなどの動作をしてみせるとそれを模倣するのもよく、または、「いやいやしてごらん」「ばいばいは?」と促せばその行為をすることができればなおよい。</p>	<p>6. ミルクや食物をみるとマンマのような音を出しますか。 「マンマよ」と言って食物をみせたり、母がミルクや食物の準備をしていたりすると、マンマ、マンマのような音を出すことがみられればよい。</p>
<p>7. おとなが「ちょうだい」と手を出すとき持っているものをその手にのせることができますか。 ことばよりも、直接的・具体的なサインであることばよりも、理解をみる、ここではことばと並行して示されたみぶりの理解で、「ちょうだい」と手を出された時、持っているものをその手にのせたり、または、または、せよとすのが渡すのはいやでひっこめたり、いやいやをするなどの反応を合格とする。</p>	<p>7. 咳・舌うち・笑い声などのまねをしますか。 おとなが、そばで咳をしたり、笑ったりすると、それをみてまねることがあれば合格 または、子どもの前で舌や唇を鳴らしてみせるとそれをまねてやってもよい。</p>
<p>8. 「いけません」というと手をひっこめたり、言った人の顔を見てやめますか。 「いけません」と言われると禁止されたことがわかって、やろうとしていた手をひっこめたり、言った人の顔を見てべそをかくなどの反応がみられれば合格。</p>	<p>8. マンマ、プーブなど言ったりくり返し話しかけると、まねをしてそれに似た音を出しますか。 マンマ、ワンワン、プーブなどおとながくり返し話しかけてやると、まねをしてそれらしい音を出すことがみられればよい。 音声の模倣ができるかを確かめる。</p>
<p>9. 少し離れた所にあるものでも、「ワンワンよ」「プーブ」など言って注意を促すとみつめることができますか。 身じかにあって直接手にすることができるような状況でなく、離れた所にあるものをことばによって探し、みつげだすことが出来ればよい。 「ワンワンよ」「プーブよ」など言って注意を促しても探そうとしなかったり、言われたものに目を留めることができれば不合格。</p>	<p>9. 意味のあることばではないが話しことばのような調子でおはなしますか。 jargon がみられるか、いかにも話をしているような抑揚で声を出していることがあるかを確かめる。</p>
<p>10. 「いらっしゃい」「たっち」など、手招きや身ぶりをしなくても、ことばだけで言ってもわかりますか。 身ぶり、状況などと分離してことばだけで言っても正しい反応をするかを確かめる。 どんなことばがわかるか、聞いて記録する。</p>	<p>10. 意味のあることばが言えますか。 ワンワン、プーブなど意味と結びついたことばの表出があればよい。 現在言えることばを聞いて記録する。</p>
<p>11. 「パパはどこ」「ママは」ときくとその方を見ますか。 「パパはどこ」と聞くとパパの方をみたり指さしたりすることができればよい。パパ、ママ、両方とも正しい反応がみられれば合格とする、他の家族、おばあちゃん、お兄ちゃんなどでもよい。</p>	
<p>12. 「新聞を持って来てちょうだい」など簡単ないつけにことばだけで従うことができますか。 「新聞もって来て」「スプーンを持って来て」など、ことばだけで言っても正しく命令に応じることができれば合格。 どんなことができるか聞いて判定する。</p>	<p>11. お母さんに向かって「ママ」「チャーチャン」といいますか。 対象と結びついて、ママ、チャーチャン、パパ、バーバ、オニイチャンなどが言えればよい。 おとなが言えばまねていうものや、対象が特定せず、誰でも「ママ」と呼ぶようなものは不合格。</p>
<p>13. 電話や玄関のベルが鳴るとお母さんの方を見て声を出したり、指さしたりして知らせようとしませんか。 ベルが鳴ると電話がかかったこと、人が来たことを知らせようとしてアアアア声を出したり、手をひっぱったり、玄関まで先に走って母の来るのを待つなどの行動がみられればよい。</p>	<p>12. 絵や物をさして自分から、(または「これなーに」ときくと)その物の名前をいいますか。 指示しながらそのものの名を言う、おとなから指示されたものの名を言うことができるか。 2語以上言える場合を合格とする。 云えることばを記録しておく。</p>
<p>14. 「お目々は」「お口は」「お鼻は」「お手々は」ときくと2か所以上正しく指さしますか。 顔、体について聞かれたものを2か所以上正しく指示することができればよい。</p>	<p>13. 手を振りながら「バイバイ」といいますか。 動作だけでなく「バイバイ」ということができればよい。</p>
<p>15. 絵本を見せて「ワンワンどれ」などきくと、4つ以上のものを正しく指さしますか。 絵本をみせて、ワンワン、プーブ、ニャーニャなど子どもの興味のあるもの、生活で身じかなもの</p>	<p>14. 自分の欲しいものをことばで要求することができますか。 欲しい物の名で、プーブ、オフ、といったり、要求語で、チョーダイ、トッテというようにことばで要求を表わすことができれば合格。</p>

<p>についておとながきいた時、正しくその絵を指示できればよい。4つ以上の事物について問いかけに対応した正しい反応があれば合格。</p>	<p>「マンマ」だけ言うが他はアーアと声を出したり手をひっぱって要求を示すように1~2の場合のみことばで要求するというものは「できる」にせず、「時々できる」にチェックする。</p>
<p>16. お母さんの要求に従って、食事・入浴などをお父さんや家族に知らせることが出来ますか。 「ごはんだからパパを呼んでいらっしゅい」「お兄ちゃんにお風呂よと行って来て」など頼んだ時その人の所へ行って食事・入浴などを伝えることができればよい。 ことばで伝えなくても、食卓・風呂場までひっぱって来る、指さしやみぶりで誘うなどでもよい。</p>	<p>15. おとなの言ったことばの一部をまねていうことがありますか。 おとな同士の会話をきいていてその中のことばをまねするのでもよく、子どもに話しかけたことばをまねてくり返すのでもよい。したがって、ことばの表出言語のレポーターに含まれるものでもよいし、含まれていない新しいことばでもよい。ことばをまねるということは、子どもにとってそのことばの意味理解がすすんでいることを示す。</p>
<p>17. 絵本をみせて「コップはどれ」「お靴は」など聞くと、身辺のもの10こ以上について正しく指さしますか。 子どもの身辺にあるもの10こ以上について、おとながきいたものを正しく対応的に指さすことができればよい。</p>	<p>16. 名前を呼ばれると「ハイ」と返事をしますか。 名前を呼ぶと「ハイ」と返事をする事ができればよい。</p> <p>17. お父さんやお母さんに何かして欲しい時「パパ」「ママ」と呼びかけて要求しますか。 「ママ、ジュース」というように「呼びかけ+対象語」もしくは、「パパ、トッチ」「パパ、アソボウ」のように「呼びかけ+要求語」の形で要求の表現をするか。</p>
<p>18. 「おみかんをもって来て、パパにあげてちょうだい」のように二つの動作を含む簡単ないいつけをまちがいにやることが出来ますか。 二つの内容を正しく理解して順序をまちがえずに指示通りの行動ができればよい。 どんな内容のものができるか聞いて具体例を示してもらい判断すること。</p>	<p>18. 「パパ、カイツヤ」「オンモ、イコウ」などのように2つのことばをつないで話しますか。 二語文が出来るか具体例を聞いて確かめる。 二語文は出現したが、特定の1~2の場合だけというのは「時々できる」にチェックする。</p>
<p>19. 自分から絵本をもって来て読んでもらったがり、1冊読み終るまでお話をよく聞いていますか。 絵本の内容に興味をもち自分から本をもって来て読んでと要求することができ、おとなが読んでやると1冊読み終るまで聞いていることができればよい。読んでという要求がない場合、読んでやっても自分の好きなページをあけたり、途中で他のことをするなど不合格とする。</p>	<p>19. 友だちの名前を覚えて言えますか。 よく遊ぶ友だちの名前を覚えて、名前を呼んだり○○ちゃんは……と話したりするか。</p> <p>20. 簡単な質問にことばで答えられますか。 眼前にあるものを指示してことばで言うのではなく現実にはない事象についてことばで答えられるかをみる。 したがって、「お姉ちゃんはどこにいったの」「動物園に何がいたの」「屋上で何にのったの」などの質問に対し、「ヨーチェン」「ゾウサン」「バトカー」など答えることが必要。 「イナイ」「アッチ」と指さすなどは不合格。</p>
<p>20. 「電車の本」「三匹の子豚の本」などという、いく冊かの本の中から指定された本をもって来ることが出来ますか。 2~3の本について言われた本を選び出してくることができればよい。特定の1冊だけに限り得るというものは「時々できる」にチェックする。</p>	<p>21. 自分のことを名前と言いますか。 自分のことを「ヒロチャン」などのように名前で言ったり、「ボク」「ワタシ」などといえば合格。</p>
<p>21. 大きい、小さいということがわかり「大きいボールはどれ」「小さいのは」ときくと正しく指さしますか。 大小についての弁別力を見るのではなく、大きい小さいということばの理解をみるのであるから、ことばと対応した反応を確かめる。お菓子などわけた時大きい方を取るから、大きい小さいがわかるというのではいけない。</p>	<p>22. 「コレナアニ」または「ナニ、ナニ」とききたがりますか。 まわりの事象に興味をもって「コレナアニ、コレナアニ」ときくことが多いか。 うるさいくらい聞きたがる、一つ答えると次々に聞くなどは合格。 最近「コレナアニ」という質問が出て来たという場合は「時々できる」にチェックする。 単に指さしておとなに言わせるものは不合格。</p>
<p>22. 「机の上において」「机の下において」などことばだけで上・下・中などがわかり正しく指示に従えますか。 指さしたり、語調で暗示を与えたりしないで正しく指示された所におくことができればよい。 2か所以上正しくできれば合格とする。</p>	<p>23. 「ボクノ自動車」「ママノ靴」のように、「誰々の何何」という表現ができますか。 助詞の使用をみる。ここでは使用形態のはっきりしている格助詞の、を用いて連体修飾語が表現できればよい。 単に「ボクノ」「ママノ」とのみ言う場合は不合格</p>

23. 欲しいものがあったとしても「あとで」といいきかせると少しの間我慢できますか。「……したあとでね」などと言いきかせると理解してしばらくは要求しない。母親の言った仕事が終わるのを見て要求してくるなどを合格とする。言いきかせても要求を固執したり泣いたりする場合は不合格。	24. 絵をみて「これは何をしているの」ときくと、「ネンネンテイル」「ゴハンタペテル」というように答えられますか。眼前にある事象について叙述的な表現ができるかをみる。したがって単に、「ネンネ」「ゴハン」のように一語文の応答ではいけない。
24. 「赤はどれ」「黄色は」「青は」などきくと、3色以上の色を正しく指さしますか。言われた色と正しく対応した色を指さすことができればよい。指させる色は何かきいて確認する。	25. 「いくつ」ときかされると自分の年齢をおくちで言えますか。手で示すのではなく、ことばで正しく答えることができればよい。
25. ことばで表現しきれないものを「コウナッテ、コウナッテ、コウイウノ」というような表現を使って手ぶり身ぶりで表現しようとするか。自分の経験したことを頭の中にイメージに描き、それを説明しようとするが、ことばで説明しきれないでこのような形で表現するか。	26. 「お名前は」ときくと姓名を言うことができますか名前をきいた時、名前だけでなく姓と名が答えられればよい。
26. 「〇〇ちゃんは男の子・女の子？」というききかたをした時「男ノ子」または「女ノ子」というように自分の性を正しく言えますか。必ず「男の子・女の子」と並列してきた場合の反応を求めること。男の子に対し「〇〇ちゃんは男の子？」ときき、「ウン」とうなづくような答え方ではいけない。	27. 4～5語つないだ文で話しますか。助詞を用いて4文節以上の文で叙述することができればよい。具体的な例示を求めて判断すること。
27. お話をしてもらいたがり、聞いていた話が途切れると催促しますか。お話をきくことに興味があって、話が中断すると「それから」「それからどうしたの」など話のつづきを聞きながら行動がみられればよい。話の途中で他のことを話したり、中断すると他のことを始めたりするのは不合格。	28. 「お父さんの名前は」「お母さんの名前は」ときくと両親の姓名を正しく答えますか。両親の姓名を正しく言えればよい。
28. 「2つちょうだい」「3つちょうだい」というと2つまでまちがいなくその数を渡すことができますか1つ、2つについて言われた数と正しく対応した数を手渡すことができればよい。	29. 「……から……なった」と原因と結果を関係づけて話しますか。「ベベにおこられて泣いた」「お姉ちゃんがじめるから怒ってちょうだい」のように、原因と結果、理由と要求を関係づけて説明しようとするができるか。具体的な例示を求めて判断すること。
29. 「……の前において」「……の後において」「……の横において」というと、ことばだけで前・後・横の位置がわかり正しくおきますか。指さしなどして指示しなくてもことばだけで言われた位置がわかり正しくおこなうことができるか。2か所以上正しくわかれば合格。	30. 昨日・今日・明日などのことばを使って話しますか時を表わすことばに関心をもって、このようなことばを使って話すか。正確な理解ができず、時々まちがえて使うという場合も合格にする。
30. ままごと、乗物ごっこなどでお母さん、赤ちゃん、車さんなどの役割をとってそのつもりになって遊びますか。象徴機能の発達をみる。ままごとなどで単純に動作をまねたり、人に言われて動作するのではなくお母さん、車さんなどの役割をとって遊ぶことができればよい。	31. 「それで」「それから」などのように接続詞を使って話しますか。表現内容が豊かになり、接続詞を使って次々と話すようになったか。

4) テストの施行範囲

テストは6か月ごとの年齢段階で区分されており、各年齢段階に4～6問の質問項目を配置してある。

一般には、子どもの該当年齢の質問から始めてみる。該当年齢の質問に対し「できない」「やったことがない」というものがあればさらに下の段階の質問を課す。このようにして同一年齢段階の質問がいずれも「できる」または「時々できる」になるまで年齢段階を下げていく。この状態が得られたらこれがテスト範囲の下限で、これ

以下の質問は全部できるとみなして問診しなくてよい。

上限の決め方は、これとは逆に同一年齢段階の質問すべてが「できない」または「やったことがない」になるまで年齢段階を上げていく。

理解・表出とも同じ方法ですすめる。子どもによっては、理解はすすんでいるが表出が遅れているという場合があり、このような場合はテストの施行範囲がアンバランスになるが、これは当然で必ずしも同一範囲を施行しなくてよい。

言語発達に遅れがある子どものテストをする場合は、年齢に関係なく、子どもの話すことばのおおよその状態から判断して、上記の方法に従って下限、上限が得られるまで範囲を広げて施行する。

5) 判定基準

「できる」：行動、反応として確実に定着しており、合格基準を満たすもの。

「時々できる」：最近できるようになったが、まだ安定していない行動。または、特定の1～2の場合についてはみられるが、まだひろがりのない行動（例えば2語文はいうが「ブーブ、アッタ」というだけとか、自分の好きな本1冊だけに限りそれを指定すれば持って来るといような場合）

「できない」：上記の基準が満たされないもの。

「やったことがない」：質問設定のような状況での行動をみたことがない、または試みたことがない場合。

6) 採点法

- できる……………1点
- 時々できる……………0.5点
- できない……………0点
- やったことがない……………0点

テスト施行範囲の下限以下の質問項目は全部できるとみなして得点に加算する。

理解得点・表出得点・合計得点を算出する。

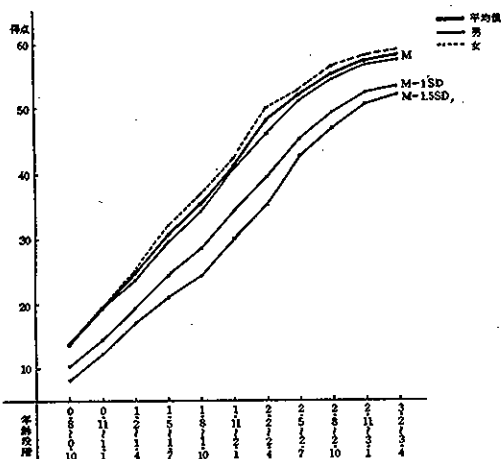
7) テスト結果の判定

スクリーニング基準点は第1表に示じてあるのでこれにより判定する。基準点以上の場合には言語発達は正常範囲内と考えてよい。基準点以下の場合には、言語発達上の要注意段階であると考え、精密検査にかけるか、発達経過を注意深く見守る必要がある。

第1表 言語発達スクリーニングテストのスクリーニング基準点

年齢段階	合計得点			理解得点			表出得点		
	平均値	選別基準点		平均値	選別基準点		平均値	選別基準点	
		M-1SD	M-1.5SD		M-1SD	M-1.5SD		M-1SD	M-1.5SD
0:8 ~ 0:10	13.6	10	8	6.7	5	4	6.9	5	4
0:11 ~ 1:1	19.0	14	12	9.8	8	7	9.2	7	5
1:2 ~ 1:4	24.3	19	17	12.6	10	9	11.7	9	8
1:5 ~ 1:7	30.6	24	21	15.7	12	11	14.8	11	9
1:8 ~ 1:10	35.2	28	24	17.8	14	12	17.4	13	11
1:11 ~ 2:1	41.4	34	30	20.5	17	16	20.9	15	13
2:2 ~ 2:4	48.1	39	35	23.7	20	18	24.4	18	16
2:5 ~ 2:7	51.8	45	43	25.4	22	20	26.4	22	20
2:8 ~ 2:10	55.1	49	47	27.0	24	22	28.1	24	23
2:11 ~ 3:1	57.2	52	51	28.0	25	24	29.4	26	25

第1図 言語発達スクリーニングテストの平均得点とスクリーニング基準点（合計点）



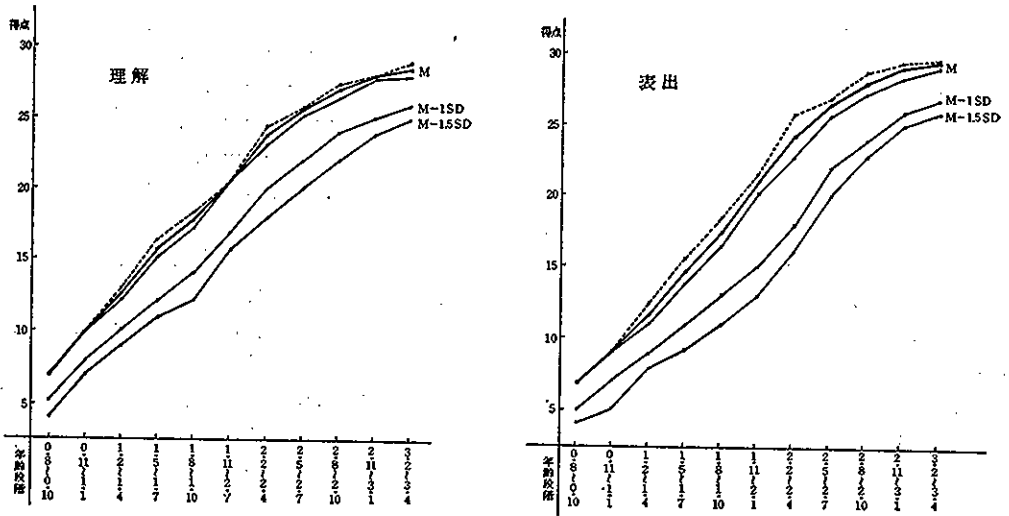
年齢段階を3か月の中で区分して、そこに基準点を示してあるので、同じ年齢段階でも月齢の低い子どもにとってはやや厳しい基準になるので、特にその子どもの得点の逸脱度が小さい場合にはこの点に含みをもって考える必要がある。テスト得点を図1～2にプロットすることにより、容易に判定することができる。

また、それぞれの得点を各年齢段階の平均値と比較することにより、その子どもの言語発達水準をおおよそ把握することができる。

8) 利用上の注意

このテストの選別は、あくまでも言語発達上問題のありそうな子どもを選別することであって、選別された子どもが直ちに言語障害児であるとか、言語発達上異常があるということではない。選別規準は統計的な操作で定めたものであり、統計的な逸脱を即異常と断定してはならない。したがって選別された子どもの扱い、母親への

第2図 言語発達スクリーニングラストの平均得点とスクリーニング基準点



指導には十分な配慮をもって、不安や混乱に陥しいれることがないように注意が必要である。

このようなテストで、早期に子どもの言語発達を評価することにはいくつかの問題や危険性がひそんでいる。子どもの能力を評価するという人間性の本質にかかわる問題もあり、また現状の言語発達の遅れが必ず将来的な問題を残すともいえない。さらに早期に評価を下すことで母親の不安を招く危険性も考えられる。

こういう問題や危険を含んでいるが、それでもなおスクリーニングテスト作成を意図したのは、言語発達上、乳幼児期の養育のあり方、特に養育者とのかかわりの重要性を考え、早期指導の必要性を痛感するためである。

また、問題点や危険性はテストを使用するものの意識により最小限におさえることができよう。したがって、スクリーニングされた子どもについては具体的な対策を講じ、母親への積極的な援助をしていくことが必要条件となる。

子どもの言語発達の現状を的確に把握することにより、母親に対し、現在子どもが達している言語機能を説明したり、次の段階への発展のためにどのようなかかわりが重要かなどについて、具体的な指導や助言が可能になるはずである。早期スクリーニングで早期治療、早期指導の効果をあげるこそ、真の目的である。